

令和2年度 第2回ゆりはま創生総合戦略会議

日 時 令和2年12月4日(金)

10時～

場 所 湯梨浜町役場 講堂

1. 開 会

2. 町長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る具体的事業の概要と取組状況について・・・資料1～4

5. 第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について・・・資料5

6. その他

7. 閉 会

ゆりはま創生総合戦略会議委員名簿

任期：令和元年5月27日～令和3年5月26日（2年間）

敬称略

	区分	役職	氏名	備考
1	産	湯梨浜町商工会	副会長	石沼 友
2	産	J A 鳥取中央	湯梨浜営農センター長	西村 好美
3	産	株式会社 栄進工業	代表取締役	坂田 康則
4	官	湯梨浜町	町長	宮脇 正道
5	学	鳥取看護大学・鳥取短期大学	理事長	山田 修平
6	学	東郷湖・未来創造会議	会長	遠藤 公章
7	学	女性団体連絡協議会	理事	井土 美智子
8	金	山陰合同銀行	羽合支店長	岩谷 悟
9	金	鳥取銀行	羽合支店長	中原 良太
10	金	日本政策金融公庫	鳥取支店事業統轄	武智 徹
11	労	倉吉公共職業安定所	所長	齋木 和紀
12	労	労働団体の関係者		加藤 一
13	労	労働団体の関係者		岡本 梓
14	言	新日本海新聞社	編集部報道課デスク	石原 美樹
15	公募	男性公募		中森 圭二郎
16	公募	女性公募		佐相 亜友美

17		鳥取県中部総合事務所 中部福祉保健局地域振興局	副局長	小谷 昭男	コシエビルヂョ（湯梨浜町田舎）
18		湯梨浜町	副町長	亀井 雅議	
19		湯梨浜町	教育長	山田 直樹	
20		湯梨浜町総務課	課長	杉原 寛	
21		湯梨浜町議会事務局	局長	山根 薦	
22		湯梨浜町出納室	室長	森 輝信	
23		湯梨浜町建設水道課	課長	斎藤 聡	
24		湯梨浜町産業振興課	課長	西原 秀昭	
25		湯梨浜町企画課	課長	上井 明彦	
26		湯梨浜町町民課	課長	尾坂 英二	
27		湯梨浜町子育て支援課	課長	杉原 美鈴	
28		湯梨浜町総合福祉課	課長	竹本 里香	
29		湯梨浜町健康推進課	課長	林 紀明	
30		湯梨浜町長寿福祉課	課長	山田 志伸	
31		湯梨浜町教育総務課	課長	岩崎 正一郎	
32		湯梨浜町生涯学習・人権推進課	課長	山崎 有紀子	
33		湯梨浜町中央公民館	館長	宮脇 一善	
34		湯梨浜町立図書館	館長	杉村 和祐	
35		湯梨浜町国民宿舎水明荘	支配人	小椋 誠	
36		湯梨浜町みらい創造室	室長	遠藤 秀光	事務局
37		湯梨浜町みらい創造室	未来創造係長	谷岡 雅也	事務局
38		湯梨浜町みらい創造室	活力創造担当係長	音田 将人	事務局
39		湯梨浜町みらい創造室	未来創造係主事	松岡 七海	事務局

参考資料:湯梨浜町の人口動向

資料1

○令和2年10月までの出生数と死亡者数は前年に比べて減少傾向であり、自然減は前年より減少の傾向にある。
 ○令和2年10月までの町外からの転入・転出は前年に比べて減少傾向にあるが、社会減となっており、県外からの転出入は、昨年以上の社会減となっている。

1 自然動態の推移

【自然動態の推移】

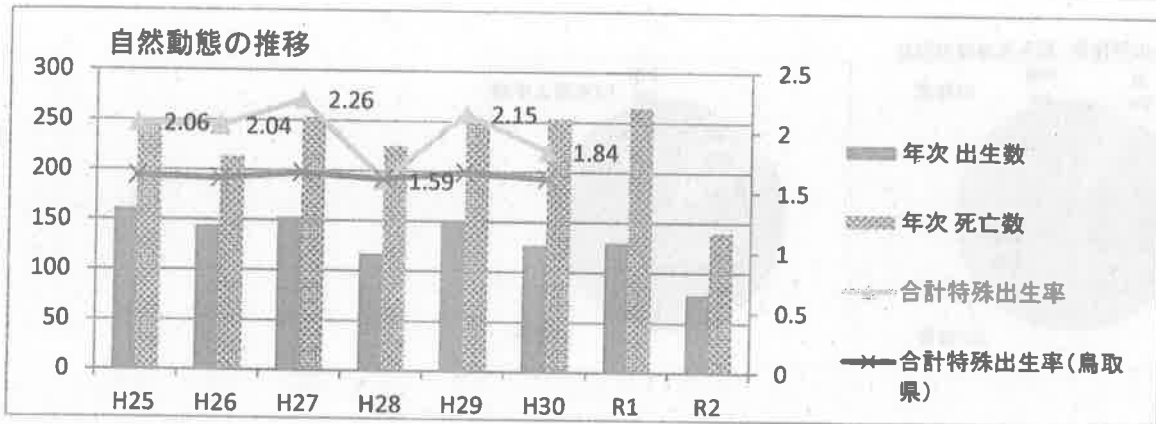
※R2については、10月1日現在

年次	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
自然増減	▲ 83	▲ 70	▲ 100	▲ 108	▲ 99	▲ 127	▲ 135	▲ 62
出生数	161	144	153	117	151	127	130	78
死亡数	244	214	253	225	250	254	265	140

【出生数と合計特殊出生率の推移】

※R2については、10月1日現在

年次	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
出生数	161	144	153	117	151	127	130	78
前年比		▲ 17	9	▲ 36	34	▲ 24	3	▲ 52
合計特殊出生率	2.06	2.04	2.26	1.59	2.15	1.84		
合計特殊出生率(鳥取県)	1.62	1.60	1.65	1.6	1.66	1.61		

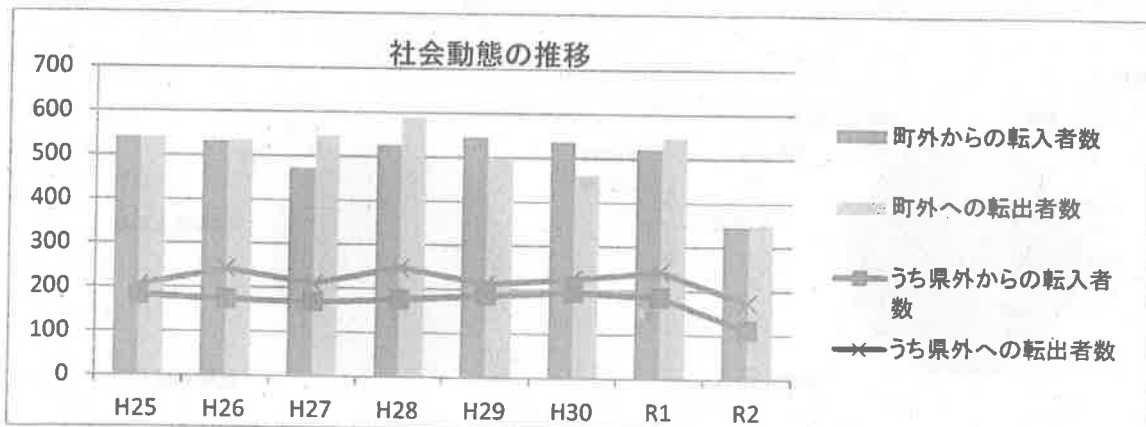


2 社会動態の推移

【社会動態の推移】

※R2については、10月1日現在

年次	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
社会増減	0	▲ 4	▲ 75	▲ 62	47	74	▲ 25	▲ 5
町外からの転入者数	540	531	472	527	545	535	521	346
町外への転出者数	540	535	547	589	498	461	546	351
うち県外転入増減	▲ 22	▲ 69	▲ 41	▲ 72	▲ 26	▲ 30	▲ 57	▲ 63
うち県外からの転入者数	183	173	169	176	187	195	185	112
うち県外への転出者数	205	242	210	248	213	225	242	175



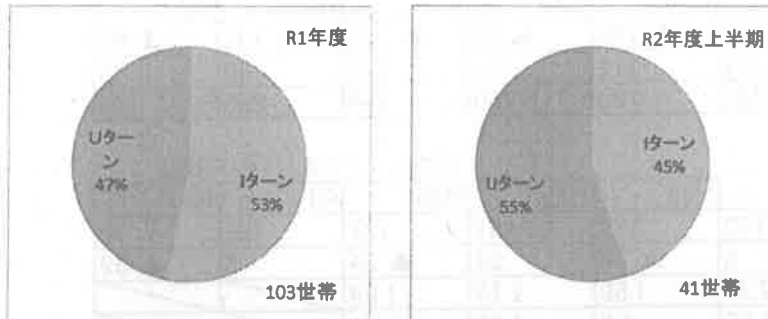
出典:出生数、死亡数、転入者数…「鳥取県の人口推計」

合計特殊出生率…人口動態調査(厚生労働省)をもとに県福祉保健課が算出

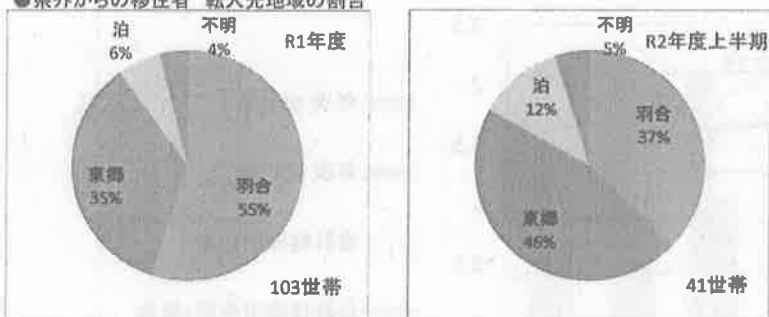
● 県への報告数(参考値)

	R1	R2上半期
世帯数	103	41
人数	142	53

● 県外からの移住 Iターン、Uターンの割合



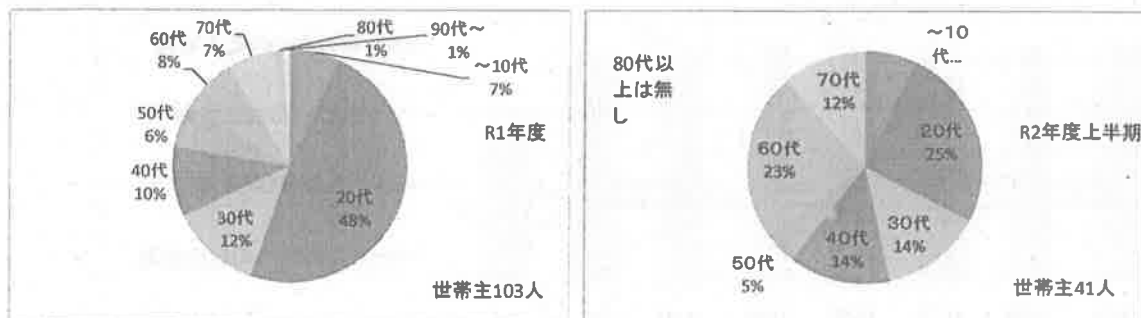
● 県外からの移住者 転入先地域の割合



● 移住前の住所



● 移住者の年代



湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況

1. 取組状況の概要(令和2年度)

取組が達成済あるいは計画どおり以上に進んでいる項目は約52%(50/97項目)

評価区分	5年目評価
A: 達成済、事業完了	4
B: 計画以上に進んでいる	2
C: 計画どおりに進んでいる	44
D: 計画より遅れている	43
E: 未着手、未実施、先送りなど	4
合計	97

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

資料 4

事業名	計画	実績		KPI		R3 実施方針	担当課
		目標	達成率	評価	評価		
1 湯梨浜町 総合戦略 策定事業	湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する事業を着実に実施していくとともに、成果検証を行い改善を図っていく。 ◆ 総合戦略会議、成果検証会議委員報償金 44千円 ◆ 戦略会議2回開催予定 44千円 ◆ 報告会、説明会、研修会への参加旅費 318千円 ◆ 消耗品の購入、郵送料 70千円 令和元年度に策定した第2期総合戦略に関する事業の着実な実施のため、成果検証のための会議を開催していく。	■ 5月12日に「ゆりはま未来づくり本部会議」を開催し、令和2年度のKPI、事業計画について、協議をした。 ■ 6月5日に「ゆりはま創生総合戦略会議」を開催し、令和2年度の戦略のKPI、事業計画を説明し、意見交換を行った。また、総合戦略の改訂について、承認を得た。 ■ 10月13日に「ゆりはま未来づくり本部会議」を開催し、令和2年度の各事業の進捗状況について、確認、協議をした。	【評価】C 計画どおりに進んでいる 総合戦略の令和2年度の計画に対して具体的な質問、意見があり、活発な議論ができている。12月4日の2回目の会議で、今年度の実績状況と来年度の方針について、議論を行う	50%	【評価】C 計画どおりに進んでいる パンフレットは、GI取得を目標として年度末へ向けて作成予定。販売PRイベントは、コロナ終息後の動きとする。20世紀梨の単価は昨年度実績4,657円/10kgに対して5,494円/10kg(8/27現在)。出荷量が少なかったため高値となった。	第2期創生総合戦略の2年目となるため、引き続き効果検証を行いながら、地方創生に取組んでいく。	みらい創造室
2 農産物販 路拡大及び ブランド化 推進事業	二十世紀梨販路拡大PR事業 30年度まで計画してきた進物用パンフレット作成については、内容などを再検討しJA東郷果実部で他の事業を活用して作成していく。 販路拡大、単価増額については、初売りなどへ向うき販売PRをして増取につなげる。 【販売PRイベント】 芸人・観光大使活動謝金 12,000円 特別旅費 45,000円 PR用梨 10,000円	■ 進物用パンフレット作成は、二十世紀梨出荷シーズン終了後に作成予定。 ■ JA東郷果実部による販売PRイベントは、コロナ禍で市場や町外でのイベントをすることができず、You Tubeやリポートによる実施となった。 ■ 首都圏店舗とタイアップした湯梨浜特産フェアを開催し、梨のほかメロン、スイカも含めた特産品販売PRを行い、ブランド化を図った。	【評価】E 未着手、未実施、先送りなど シャインマスカットの新植要望がなく、引き続き生産部と協議を行い、面積の拡大を図る。	100%	【評価】E 未着手、未実施、先送りなど シャインマスカットの新植要望がなく、引き続き生産部と協議を行い、面積の拡大を図る。	産業振興課	
3 鳥取梨等 生産振興 事業(農業 生産現場 強化事業) ①	鳥取県が新規格栽培を推奨している新品種(輝太郎、シャインマスカット)への新植、それに伴う園地の整備(ハウス新設、果樹棚、園内道、かん水施設等)、育成管理を支援する事業。 JAが要望を取りまとめたところ、柿、シャインマスカットとも新植希望者が無かったが、継続して普及促進を図っていく。 ◆ 意見交換会を計画 ふどう生産者との意見交換会を開催し、生産振興に向けた問題と改善策を整理し、制度設計も含め町の支援の在り方を検討する。	■ 輝太郎の果樹棚整備6.0a(1戸)を実施。シャインマスカットやピオーネ、その他の柿についても引き続き支援の拡大を図る。 ■ 意見交換会はJAを通じて日程を調整中。	【評価】A 達成済、事業完了 防除用機械の整備支援を行い、計画どおり省力化防除面積が増加した。	0%	今年度に引き続き、作業の省力化並びに農業所得の向上を図る。 また、さらなる生産基盤強化を図るため、新規の梨園地の造成および現存園地の拡大も含めて県、JAと連携する。	産業振興課	
4 鳥取梨等 生産振興 事業(農業 生産現場 強化事業) ②	鳥取県生産振興事業(地方創生) 【事業内容】県が注力している新品種(新甘泉、秋甘泉、王秋)を中心に栽培に必要な資材(苗木、土壌改良剤等)の施設(果樹棚、かん水施設、園内道、SSなど)の整備を支援。 【補助率】新品種の植栽を伴う場合は2/3(県1/3+町1/6)、既存の品種が中心の場合は1/2(県1/3+町1/6) 【対象者】町内で梨を栽培している農業者(認定農業者は個人で取組可)または農業協同組合 ◆ 補助金 20,978千円 ◆ 補助金等特別対策 15,374千円、梨生産拡大 2,430千円、低コスト・体制強化 2,174千円	■ 新甘泉特別対策15,480千円、ジョイント栽培拡大1,612千円、低コスト・体制強化1,050千円など18,153千円の事業実施を計画。新甘泉の新植が76a(昨年比28a増)となり、農業所得の向上が期待できる。また防除用機械(135a分)を購入し、省力化を図った。 ■ ゴールド二十世紀梨のハウス栽培に取り組むため、ハウス設置支援18,534千円を実施。生産基盤強化を図った。	【評価】A 達成済、事業完了 防除用機械の整備支援を行い、計画どおり省力化防除面積が増加した。	100%	今年度に引き続き、作業の省力化並びに農業所得の向上を図る。 また、さらなる生産基盤強化を図るため、新規の梨園地の造成および現存園地の拡大も含めて県、JAと連携する。	産業振興課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
5 東郷梨地 域連携栽 培プロジ ェクト事業	梨特産地維持のための企業型梨生産プロジェクト。H27からの補助事業期間は終了したが、引き続き梨栽培を中心に、取り組む。後継者のいない梨園を借りて梨を栽培し、産地の維持に寄与するとともに規格外の梨を加工品用に出荷する等で6次産業化を目指す。 ○R2年度計画 梨生産 60a (うち 梨の木オーナー15a 梨葉ビジネス 15a) 【事業者】東郷梨地域連携栽培プロジェクトチーム	プロジェクトによる梨栽培を継続して実施。選果場出荷のほか、梨オナーナー制度を実施した。生産面積60a	プロジェクトの持続的展開	100%	【評価:A 達成済、事業完了】 梨の葉ビジネスも含め引き続きプロジェクトによる梨栽培を行っていく。案件の良い梨園を引き受けられるよう生産部と連携して取り組んでいく。	産業振興課
6 二十世紀 梨を守る事 業	【地方創生推進交付金】 興事業の対象とならないオリジナルの二十世紀梨の苗木やハウス二十世紀梨の資材(苗木など)、ハウスの機能強化・強度向上に対して支援を行う。	特産果物生産振興事業で実施(二十世紀梨を守る事業は令和元年度で特産果物生産振興事業へ包含)	新植またはハウス梨の機能向上面積を50a以上の増			
7 湯梨浜版 担い手認定	支援 1,000千円、果樹棚、かん水施設設置支援 240千円 ○湯梨浜町担い手ステツプアップ支援事業 【対象者】①認定農業者、②準認定農業者、③認定新規就農者、④準認定新規就農者、⑤集落営農組織 【支援内容、補助率等、対象者】 ○就農奨励金:就農3年以内の対象者に定額30万円、④ ○新規就農者住宅家賃補助:町外から転入する就農者に家賃上限2万円を補助、③・④ ○中古機械導入補助:中古機械導入費の1/3(上限10~50万円)を補助、①・②・③・④・⑤ ○農業機械修理補助:農業機械・施設の修繕費の一部を補助(5~30万円)、①・②・③・④・⑤	○中古機械導入補助1件 補助金額500千円 ○農業機械修理補助1件 補助金額57千円	新たな認定農業者数 2名	100%	【評価:A 達成済、事業完了】 今後も継続し、農家の営農を支援する。 新たな認定農業者2件認定。	産業振興課
8 中核的担 手農家育 成奨励金 交付事業 (農業生産 現場強化 事業)	【事業内容】 認定農業者あるいは新規就農者が町内の農地を3年以上借り受け、貸付した場合、奨励金を交付する。本町の農地を守るため、27年度から町外の認定農業者が借り受け、場合も対象としている。 町内者:2,000円/10a x 年 町外者:1,000円/10a x 年	○町内者 権利設定面積 628a 補助金額 884,800円	権利設定面積 8ha	80%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 権利設定面積は6.28ha。計画的に権利設定しており、今後も増加見込。	産業振興課

13 特産果物生産振興事業へ統合し、削除します。

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
9 知的所有 権取得支 援	<p>○知的所有権取得支援事業 知的財産権(登録商標、GIマーク、意匠権など)の申請・取得を希望する事業者に対して経費の一部を支援。 【補助率】1/2(ただし、上限25万円とする) 【対象者】生産者等(生産者団体、食品加工業者を含む)、農産加工グループ、農業法人、JA等 ◆補助金250千円×1団体=250千円</p>	<p>■コロナ禍で弁護士への委託ができなかったため、委託を行わず申請書類を作成した。</p>	<p>【評価】C 計画どおりに進んでいる】 10/6付でGI申請済。</p>	<p>50%</p>	<p>ブランド力の強化、育成や模倣品の排除のため未取得の農産物の商標登録を働きかけ支援していく。</p>	産業振興課
10 パッケージ デザイン作 成助成事 業	<p>○パッケージデザイン作成助成事業 町内で製造された農産物の販売、または町内産の原料等を使用した加工品を製造販売する際に必要な、商品のパッケージデザインを新たにを行う事業者に対し、経費の一部を支援。 【補助率】1/2(ただし、上限8万円とする) 【対象者】生産者等(生産者団体、食品加工業者を含む)、農産加工グループ、農業法人、JA等 ◆補助金 80千円×1団体=80千円 (実施希望があれば補正予算により対応する。)</p>	<p>■現時点で実施要望なし</p>	<p>【評価】E 未着手、未実施、先送りなど】 未実施</p>	<p>0%</p>	<p>事業広報に努め、農産物や加工品の販売促進のため制度利用を促す。</p>	産業振興課
11 東郷湖漁 業振興事 業	<p>○東郷湖漁協漁業振興費補助金 【事業内容】漁協が実施する覆砂事業費を補助し、東郷湖の水質浄化及びシジミの増殖を図る。 ◆補助金 250千円 ○内水面漁場環境保全事業補助金 【事業内容】東郷湖の浮遊ゴミ等の処理費を補助し、漁場環境を保全する。 ◆補助金 233千円</p>	<p>○東郷湖クリーンアップ事業 7/3 交付決定 9/12 東郷湖漁協による池内清掃実施 ○東郷湖覆砂事業 7/3 交付決定</p>	<p>【評価】D 計画より遅れている】 池内清掃の実施により、漁場環境の保全を図った。 シジミの漁獲量は前年並み。 目標：令和元年95t+25t 令和2年度(11月末見込)：87t</p>	<p>73%</p>	<p>今後も継続して覆砂事業、クリーンアップ事業の助成を行い、東郷湖内の保全を促進し、シジミの漁獲量増加を図る。</p>	産業振興課
12 沿岸漁業 活性化推 進事業	<p>町内の漁業者の漁業経営改善を図るために、燃料高騰対策として輸送量コスト支援並びに漁船用機器導入支援を行う。 ◆輸送コスト支援補助金 30,000箱×100円×1/3= 1,000千円 ◆レーダー・コンパス導入支援補助金 2名分 3,135,000円×1/6= 523千円</p>	<p>○輸送経費補助事業 4/1 交付決定 ○漁船用機器購入費補助事業 6/12 交付決定 7/30 変更承認</p>	<p>【評価】C 計画どおりに進んでいる】 当初の予定どおり鳥取県漁協に対して交付決定を行った。</p>	<p>66%</p>	<p>輸送経費補助については、継続して支援を行う。漁船用機器購入費補助については、要望に応じて適宜支援を行っていく。</p>	産業振興課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
13 特産果物 生産振興 事業	町の特産品である、二十世紀梨、ぶどう、イチゴ、メロン、スイカ、柿の生産を維持・拡大するため、県の補助事業にのらない品種について、生産者の要望に沿った支援を行なう。 ブドウ連棟ハウス巻き上げ機設置 1/2補助 1,724千円 二十世紀梨苗木、栽培資材導入 2/3補助 52千円 果樹棚かん水施設設置 1/2補助 500千円 梨栽培ハウス更新・機能向上 1/2補助 1,000千円	■二十世紀梨等の特産農産物の生産を支援するため、特産農産物生産振興事業費補助金を新たに設け、ぶどう部会のぶどうハウス谷巻上設置2,278千円を支援した。また、二十世紀梨灌水施設機能強化、自然災害補強、高機能被覆など2,532千円を支援する予定。	設備導入支援 農家数 5戸	100%	【評価:B 計画以上に進んでいる】 ハウス谷巻上設置2戸、灌水施設1戸、資材導入1戸、自然災害補強3戸、高機能被覆資材導入2戸で取り組み。	産業振興課
14 森林環境 税関連専 業	管理不足による森林環境の悪化が懸念される中、森林経営管理事業や放置竹林対策事業を支援する。 ◆森林経営管理事業 1,340千円 ◆意向調査委託・管理権集積計画作成委託 ◆竹林対策事業 134千円 ◆町放置竹林対策協議会 タケノコ掘り講習会、ウラ止め・間伐講習会 ◆森林整備基金積立金 4,826千円 令和元年度森林経営管理事業推進面積 18.22ha (意向調査回答面積 9.83ha)	■石脇・泊地内の意向調査を実施。昨年度意向調査を行った原・園地内の管理権集積計画の作成予定。 ■竹林対策事業関連については、コロナ禍のため未実施。 ■森林環境税と税の積立 4,826千円	森林経営管理事業推進面積 12ha	40%	【評価:D 計画より遅れている】 意向調査のアンケート送付、管理権集積計画作成業務の現地調査実施中。放置竹林対策協議会は次期会議に向けて会長副会長と現場確認を行った。	産業振興課
15 ゆりはま農 作業体験ツ ア一事業	就農希望者に本町の農作業体験ツアーを提供する。費用助成することで参加を促し、将来的な移住就農へとつなげる。 ◆交通費・宿泊費助成 110千円	■コロナ禍のためPRができず実施できていない。	参加者数 4人	0%	【評価:E 未着手、未実施、先送りなど】 実施できていない	産業振興課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI		R3 実施方針	担当課
					評価	（単位：千円）		
16 グラウンド・ゴルフ国際化及び潮風の丘聖地化の推進①	<p>【地方創生推進交付金】 グラウンド・ゴルフの国際化に向け、プロモーションDVDの多言語化を推進する。本年度はフィリピン、モルデブ、スリランカ(2言語)の3カ国、4言語版を追加。 ◆多言語DVD作成委託料 2,002千円</p>	<p>計画の3カ国4言語の多言語化の業務委託の発注準備を行った。11月中旬に業者決定の見込み。</p>	<p>①海外からのイベント参加者数 240人 ②海外からのイベント新規参加国数 2カ国</p>	20%	【評価：C 計画どおりに進んでいる】 年度末に完成し、制作した動画をHPで公開する予定。	<p>グラウンド・ゴルフの海外普及のターゲットにあわせて言語を選定して、さらなる多言語化を進める。</p>	産業振興課	
17 グラウンド・ゴルフ国際化及び潮風の丘聖地化の推進②	<p>グラウンド・ゴルフの国際化及び潮風の丘聖地化に向け、潮風の丘の施設等整備を行う。 30,313千円 ◆潮風の丘とまり多目的広場の芝生の改設</p>	<p>多目的広場の芝生改設工事の発注を行った。</p>	<p>①海外からのイベント参加者数 240人 ②海外からのイベント新規参加国数 2カ国</p>	25%	【評価：C 計画どおりに進んでいる】 芝の張替え(張芝工)は年内完了予定。(付帯設備工事は2/28まで)	<p>潮風の丘聖地化及びグラウンド・ゴルフの国際化及びびに 向け、年次的に施設整備を行っていく。</p>	産業振興課	
18 グラウンド・ゴルフ国際化及び潮風の丘聖地化の推進③	<p>【地方創生推進交付金】 グラウンド・ゴルフの国際化のため、海外普及活動・WMG2021関西のPR・国際組織の運営協力や、用具海外販売を促進する。 ルール普及2,386千円 ◆フィリピン、メキシコ、スペイン ◆用具提供2,989千円 未普及国を中心に用具を贈呈するとともに、湯梨浜まちづくり隊による販売をPRする。 ◆国際組織運営協力492千円 ◆国際大会時に国際グラウンド・ゴルフ連盟と連携して、参加国代表者会議等を開催する。</p>	<p>◆ルール普及0千円 新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う入国制限等により、トップセールスを実施できない状況ではあるが、6月にインドネシア及び台湾の留学生等を潮風の丘とまりに招いて、GG体験を実施した。 ◆用具提供1,110千円 海外愛好者等のWMG2021関西の参加費負担軽減を図るため、湯梨浜まちづくり隊による海外用具販売において、30%offセールを6月から開始。3か国に2,577千円を売り上げ、過去の販売実績を上回った。 ◆国際組織運営協力0千円 グラウンド・ゴルフ国際大会YURIHAMA 2020の中止に伴い、参加国代表者会議も中止となったことから、未執行。</p>	<p>①海外からのイベント参加者数 240人 ②海外からのイベント新規参加国数 2カ国</p>	0%	【評価：D 計画より遅れている】 5月のグラウンド・ゴルフ国際大会及び10月の天女ウオーグが中止となり、海外からの参加者が見込めない状況。 WMG2021関西に向け、目立ったPR活動は実施できないものの、海外のGG協会等と連絡調整を密に行うなど、地道に参加を促しているところ。	<p>WMG2021関西のPRを本格的に再開する。さらに、国際連盟と連携を図り、今後の発祥地としての海外普及の方針を固める。</p>	みらい創造室	
19 ウオーキングリゾート構想の推進及びインバウンドの促進①	<p>【地方創生推進交付金】 町の認定したウオーキングコースを生かし、国内外の交流人口増加と地域活性化を目指す。 湯梨浜町ウオーキングコースにおいて町の特産等でおもてなしを行う。 【ウオーキングリゾート推進事業】 ◆消耗品費 40千円 ◆通信運搬費 14千円 ◆書籍印刷料 180千円 ◆委託料 1,557千円 (うち、済州オルレとの「友情の道」事業委託費 1,386千円) ◆負担金 5千円</p>	<p>■6月に開催予定であったSUN-IN未来ウオーグにて、済州オルレとの「友情の道」の調印式を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。 ■新型コロナウイルス感染症拡大の影響で国内外への渡航が難しい状況であり、「友情の道」協定締結を11月4日にオンラインで実施した。 ■11月13日、社団法人済州オルレ日本支社長イ・ユミ氏をお招きし、「トレイルと観光」と題して講演会を開催した。 ■協定締結後の11月14日、「ゆりはま健康ウオーグ」のコースとして設定し、約200名が参加。</p>	<p>①海外からのイベント参加者数 240人 ②海外からのイベント新規参加国数 2カ国</p>	0%	【評価：D 計画より遅れている】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、イベント等が中止となったことや、海外への渡航が見込めない状態。参加者に向けてのイベント開催は難しい状況であるが、ウオーキングについてのPRを行う。	<p>国内外へ向けてウオーキングコースのPRを行いながらウオーカーを獲得し、インバウンドの促進に取り組み。また、済州オルレとの「友情の道」協定締結後、さらなる良好な関係を築き、国外へ湯梨浜町をさらにPRできるように事業展開する。</p>	健康推進課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	評価	R3 実施方針	担当課
アロハカーニバル 事業【I:③商工 業の振興にも掲 載あり】 20	本町にある羽合地域の「ハワイ」の知名度を活かした期間設定の取り組みとして、ハワイ風アレンジした地元産食材を活用した料理メニュー開発・提供を行い、ヘルシー・スイーツ・展覧業務等との連携により、本町への観光客の滞留性を高めるとともに飲食店の振興と地域の活性化を図る。 ○事業費内訳: オーブニングイベント 300千円 観光誘致費用(宿泊参加者プレゼント等) 365千円 イベントPR費用 720千円 事務費45千円 計1,430千円 ◆上記に対する補助金額 1,250千円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実行委員会で協議の結果、今年度の事業は中止とした。	①新メニュー提案数:15店舗以上 ②新メニュー提案数:2,000食以上	0%	【評価:E 未着手、未実施、先送りなど】 実行委員会で協議。ハワイアンプレスティバル中止やコロナ禍において実施の判断に至らなかった。	安全性への配慮等アフターコロナの消費者ニーズを捉え、需要回復に向けたキャンペーンとなるよう実行委員会と協議して進めていく。	産業振興課	
天女のふる里づくり事業① 21	①東郷湖・未来創造会議事業 「天女のふる里づくり」事業の一環の伸展に向け、地域おこし協力隊制度を活用して緑化・植花の取り組みを推進する。 ◆地域おこし協力隊員報酬 1,992千円 ◆社会保険料 336千円 ◆委員報酬等 86千円 ◆委員旅費 59千円 ◆消耗品 10千円 ◆通信運搬費 13千円 ◆交付金 1,664千円 ②花と緑のまちづくり支援事業補助金の交付 ◆補助金 400千円	①東郷湖・未来創造会議事業 ・9/3に今年度第1回目の東郷湖・未来創造会議を開催。委員からの提案事項についてWTでの検証を行うことになった。11/30、12/9にWT開催予定。 ・地域おこし協力隊制度を活用して緑化・植花の取り組みを進めている。⇒町内各地区でコンテナガーデン教室を開催。(東郷5/17、泊9/24、羽合12月予定)また、どれみを利用したプチコンテナガーデン教室を開催。全4回の予定で9/17及び11/19の2回実施。 ・東郷湖周花マップの作成に着手。花の分布図の作成やデータ収集を行った。 ◆非常勤職員報酬 1,328千円 ◆社会保険料 56千円 ◆委員報酬等 10千円 ◆委員旅費 0千円 ◆消耗品 0千円 ◆通信運搬費 0千円 ◆交付金 467千円 ②花と緑のまちづくり支援事業補助金の交付 ⇒補助金を有効に活用できる場所について、協力隊の活動と連携しながら検討している。 ◆補助金 0千円	①住民参加による緑化・植花の取組:7件	57%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 東郷湖未来創造会議の開催や地域おこし協力隊の活動については、新たな取り組みを定めた等、計画どおりに進捗している。 花と緑のまちづくり支援事業補助金については、申請が無く、制度の見直しを検討している。	緑化に関する住民の機運を醸成し、主体的・自律的な活動へ誘導していくため、地域おこし協力隊と地域住民との関係構築を必要とする。そのため、コンテナガーデン教室等の隊員と住民の接点を増やすとともに、地域おこし協力隊の活動を周知していく。花と緑のまちづくり支援事業補助金については、有効活用して普及を図る。	企画課	
天女のふる里づくり事業② 22	①-1 天女を活用したまちづくりの環境として関係自治体へのイベント参加交流を実施 ①-2 子どもたちへの羽衣天女伝説の認知度を向上を目的にパンフレットを配付 ◆イベント参加旅費 100千円 ◆消耗品 78千円 ◆通信運搬費 10千円 ◆モニタメント保険料 4千円 ◆高速道路使用料等 27千円 ②宇田桜やハナミズキ、宙ユリなど花関連の情報を発信する。	①-1 新型コロナウイルスの影響により、天女サミット(10月予定)及び高石市のイベント(11月予定)が中止となった。 ①-2 子どもたちへの羽衣天女伝説の認知度を向上を目的にパンフレットを制作し、小学3年生以上の児童に688冊配布。 ②空ユリの開花状況を町報にて周知した。宇田桜の開花についてNHKニュースで取り上げられた。	①イベント参加:2回 ②花関連情報の新聞、ニュース等での取り扱い:2回	25%	【評価:D 計画より遅れている】 今年度は、新型コロナウイルスの影響で関係自治体のイベントが中止となっており、今後のイベントについても未定。 町内小学3年生以上に天女パンフレットを配布し、郷土への関心を高めることができた。	今後、関係自治体との交流を継続し関係強化を図り、相互の魅力発信を充実させていく。 天女パンフレットについては、小学3年生に配布し、ふるさとへの愛着を深めていく。	企画課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI		R3 実施方針	担当課
					評価	評価		
23 天女のふる里づくり事業③	・宇宙桜植樹交流事業 ・宇宙を旅した桜の種から生育した苗木の植樹をH29に実施。宇宙の桜＝「天女桜」として育て、観光振興に活用していく。これをシンボルとして、緑化推進の機運醸成にもつなげる。(植樹3年目) ◆旅費 194千円 ◆消耗品 53千円	天女桜プロジェクトチームの協力による緑化活動を実施。また、5/17及び11/27にはガーデン内にラベンダーの植花を行った。	宇宙桜に関連した住民参加による取組:2回	100%	【評価:A】達成済、事業完了) 地域おこし協力隊と地域住民との関係が深まっており、今後の関係強化及び活動の拡大を図っていききたい。	R3 実施方針 引き続き地域住民を巻き込んだ活動を継続していき、将来的には住民主体の取組を進めていく。	企画課	
24 天女のふる里づくり事業④	・天女のふる里東郷湖「花」基金積立金 天女を活用したまちづくりの推進策の一つである町内の緑化推進のため、東郷湖周への桜植樹などを行うこととしている。その財源に充てるため、ふるさと納税制度等を活用した寄付を募り、基金へ積み立てるもの。 ◆積立金 2,001千円	・天女のふる里東郷湖「花」基金積立金 ふるさと納税制度等を活用した寄付額は、10月末現在で809千円。年度末に基金へ積み立てる予定。納税額の落ち込みにより、12月補正にて予算額を2,001千円から1,501千円に減額する予定。 ◆ふるさと納税寄附額(10月末現在)809千円 ⇒年度末に積立て予定のため、現時点で執行額は0円。 ■デザイン活用18件 ■着ぐるみ活用6件 イベント開催自費の影響で着ぐるみの活用が少ない状況。	寄付金額を200万円とする。	40%	【評価:D】計画より遅れている 寄附額は順調に増えているが、前年度と比べ2割程度の減額となっている。	基金の有効活用をPRすることとで、寄付額の増加を図っていく。	企画課	
25 天女のふる里づくり事業⑤	・町天女キャラクター活用推進事業 天女のまちイメージ創出に向け、天女キャラクター「ゆりりん」の活用を進める。 ◆旅費、メンテナンス、通信運搬費等 192千円	◆R2年度会費 2,031千円 鳥取県中部エリア(嵯峨山エリア含まない) ・観光入込客数 875,836人 (前年比:△50%、前年:1,746,919人) ※R2年4月～8月期 ・全宿泊者数(日本人・外国人計) 79,693人 (前年比:△65%、前年:229,068人) R2年4月～8月期 ・外国人宿泊者数 374人 (前年比:△97%、前年:11,353人) R2年4月～8月期 4月23日 5月32日 6月13日 7月26日 8月7日	デザイン活用40件 着ぐるみ活用40件	30%	【評価:D】計画より遅れている デザイン、着ぐるみともに活用を進めていく。	天女のまちのイメージ創出と定着のため、ゆりりんのデザインと着ぐるみの活用を進める。	産業振興課	
26 観光地域づくりの核となる「DMO」の推進(広域連携)①	・鳥取県中部観光推進機構【会費】 鳥取県中部地域及び岡山県・兵庫県との連携を深め、観光資源の共有及び周遊環境の整備等による広域観光地の魅力向上のための事業を展開するためH27に一般社団法人化したDMO組織への会費。 ◆会費 531千円	◆R2年度会費 2,031千円 鳥取県中部エリア(嵯峨山エリア含まない) ・観光入込客数 875,836人 (前年比:△50%、前年:1,746,919人) ※R2年4月～8月期 ・全宿泊者数(日本人・外国人計) 79,693人 (前年比:△65%、前年:229,068人) R2年4月～8月期 ・外国人宿泊者数 374人 (前年比:△97%、前年:11,353人) R2年4月～8月期 4月23日 5月32日 6月13日 7月26日 8月7日	推進交付金 中部エリア(R3.3) ①年間観光入込客数 100,000人(R2増加分) ②年間宿泊客数 200,000人(R2増加分) ③年間外国人宿泊客数 4,000人(R2増加分)	42%	【評価:D】計画より遅れている ①②新型コロナウイルス感染症の影響により、4月以降大幅に減少しているが、国のGo toキャンペーンにより7月以降は客足が徐々に戻ってきている。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により4月以降の宿泊者数は大幅に減少している。	新型コロナウイルス感染症収束後、中部圏域で連携した観光商品造成を進め、海外セールスなどを通じてインバウンドをばしめとした観光客の誘致に取り組み。	産業振興課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		実施方針	担当課
			目標	達成率		
27 観光地域づくりの核となる「DMO」の推進(広域連携)②	【地方創生推進交付金】 中部地域及び岡山県蒜山地域の観光プラットフォーム機能を充実させて次の事業を実施する。 広域観光連携推進事業負担金 22,000千円 おもてなし、受入環境整備事業 温泉地イメージ戦略事業 情報発信事業 プロモーション推進事業 誘客戦略事業 ◆湯梨浜町負担金 3,604千円	◆R2年度負担金 3,604千円	推進交付金 中部エリア (R3.3) ①年間観光入込客数 100,000人 (R2増加分) ②年間宿泊客数 200,000人(R2増加分) ③年間外国人宿泊客数 4,000人 (R2増加分)	【評価:D 計画より遅れている】 ①②新型コロナウイルス感染症の影響により、4月以降大幅に減少しているが、国のGo toキャンペーンにより7月以降は客足が徐々に戻ってきている。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により4月以降の宿泊客数は大幅に減少している。	R3 実施方針 新型コロナウイルス感染症収束後、中部圏域で連携した観光商品造成を進め、海外セクターなどを通じてインバウンドをはじめとした観光客の誘致に取り組み。	産業振興課
28 教育旅行のメニュー開発事業	教育旅行商品の企画造成を行う。 ◆町観光協会補助金 10,200千円	◆町観光協会補助金交付10,200千円 2022年度 教育旅行予約14件 (トラゴン14件、Gゴルフ9件 重複あり)	2年後の修学旅行等の予約:10件	【評価:B 計画以上に進んでいる】 2022年度教育旅行予約 14件(140%)	引き続き、観光協会を通じてPRしていく。	産業振興課
29 ゆうゆうゆりはま事業	【地方創生推進交付金】 ◆都市圏ブランド周知イベント ◆イベント用コンテンツ制作 -「ゆうゆうゆりはま」新聞広告 -「ゆうゆう、ゆりはま」マルシェイベント ◆その他 ・HP保守管理、ゆりはまオリジナルコーヒー制作	◆湯梨浜町地域活性化支援業務 R2.6.27 ゆりはまマルシェ(泊) ポスター作成個人10種 人物紹介冊子1000部、町PR動画作成 ゆりはまコーヒーパッケージリニューアル、Webサイトを利用した町特産物の販売サポート、HP管理ほか	県外からのIUUターナー者数 185人	【評価:D 計画より遅れている】 県外からのIUUターナー者数 85人 ※4～10月期 40%	R2年度までに作成したHPや冊子、ポスター、動画等により、県内外へ情報発信を継続する。	産業振興課
30 食と健康のまちづくり事業	【地方創生推進交付金】 タニタヘルズーツーリズムの展開 ・飲食店とタイアップしたタニタ監修メニューの提供 ◆タニタヘルズーツーリズム展開業務委託料 監修メニュークリエイティブ業務 165千円	■昨年度末に新規提供店舗が3店舗加わり、計8店舗となった。 ■本課の健康二次被害防止キャンペーンと併せて、監修メニューについて町報7月号で紹介した。 ■メニューの品質チェックについては、前年度は12月に実施。1年経過に合わせて、本年度も12月に実施する予定である。	【目標】 監修メニュー提供数550	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 【提供数】:469食 (10月末時点) ゆりはまヘルシーくらぶ会員に店舗一覧を配布するなどして周知を図っている。会員はもちろんのこと、広く住民に利用いただける工夫を検討する。	食分野での町民の健康意識の醸成、これに伴う協力店舗の活用・賑わいに向けて、引き続きメニュー提供が可能となるよう品質チェックを実施していく。	健康推進課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

事業名	計画	実績		KPI		R3 実施方針	担当課
		目標	達成率	評価	評価		
31 ゆりはまじ げ産業支 援事業	町内での創業、新事業進出や販路開拓に取り組む事業者に対して必要経費の一部を補助する。 ◆補助金 創業、新事業進出500千円×4事業者+販路開拓200千円×15事業者=5,000千円	■1事業者に61千円を交付決定 新規顧客開拓のための歯科医院の設備導入を支援した。	制度活用事業者5件以上	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 相談2件あり。	20%	地域資源を活用した事業に関する支援メニューの追加などを検討しながら、制度を運用していく。	産業 振興課
32 チャレンジ ショップ支 援事業 【I:④履 用の推進に も記載あり】	町内の空き店舗や空き家などを借りて事業を行う場合にその賃借料を補助する。 ◆補助金 新規分1件480千円	■2事業者に630千円を交付決定 空き店舗を活用した飲食店の創業を支援している。	新規申請1件	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 相談1件あり。	100%	事業開始後の固定費を支援するため、制度を継続して運用していく。	産業 振興課
33 (再掲) アロハカ ニバル事業 【I:②観 光産業の 振興にも記 載あり】	本町にある羽合地域の「ハワイ」の知名度を活かした期間設定の取り組みとして、ハワイ風のアレンジした地元産食材を活用した料理メニュー開発・提供を行い、ヘルシー・ツアーリズム展開業務等との連携により、本町への観光客の滞留性を高めるとともに飲食店の振興と地域の活性化を図る。 ○事業費内訳: オープンイベント 300千円 観光誘致費用(宿泊参加者プレゼント等) 505千円 イベントPR費用 650千円 事務費50千円 計1,505千円 ◆上記に対する補助金額 1,250千円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実行委員会で協議の結果、今年度の事業は中止とした。	①新メニュー提供店舗数:15店舗以上 ②新メニュー提供数:2,000食以上	【評価:E 未着手、未実施、先送りなど】 実行委員会で協議。ハワイアソシエーション中止やコロナ禍において実施の判断に至らなかった。	0%	安全性への配慮等アフターコロナの消費者ニーズを捉え、需要回復に向けたキャンペーンとなるよう実行委員会と協議して進めていく。	産業 振興課
34 ふるさと名 物応援事 業	国の補助金を活用した4事業者が、ふるさと名物関連商品の販売とその販路開拓を進める。加えて、国の補助対象外および4事業者以外にも事業に取り組む事業者を町として支援し、ふるさと名物のさらなる普及に努める。 ◆補助金 150千円×1事業者=150千円	ふるさと名物応援宣言に関連した国の補助金の活用期限は終了したが、対象となった4事業者と今後も取り組みを進めていくことを確認。現時点では4事業者は既存のものを生かした取り組みを進める方針で、本補助金を活用した新規事業を行う予定はない。	新規申請1件以上	【評価:D 計画より遅れている】 連絡会議で情報提供。4事業者以外に実施希望があれば幅広く支援していく。	10%	ウォーキングアプリ構想推進のためのソフト事業として継続していく。連絡会議等で情報提供し、新しい事業展開につながる制度改正も検討していく。	産業 振興課
35 環境創出プ ロジェクト事 業	町民から生ごみを回収し、これを活用し農業用の有機液体肥料や培養土として販売する。また、その他東郷支所などに液体タンクを設置し、町民に無料配布する。これにより町民参画と食物を土に返すことによるイメージアップ、企業との連携によるエコブランドの販路を回り循環型社会を目指す。 ◆対象事業費3,677千円(委託料3,526千円:生ごみ収集運搬、報償金10千円:生ごみ回収協力区への報償、消耗品費141千円:生ごみ収集に係る事務経費)	■生ごみ回収協力区(10区)の生ごみ回収。 ■有機液体肥料エコロジー生産量(10月現在) 66.674kg (R1.10現在 65.901kg) ■町報6月号に生ごみ回収協力区を募集するも応募なし。	生ごみ回収協力区の拡大 R1末 10区 ⇒ R2末 11区以上	【評価:D 計画より遅れている】 生ごみ回収について内容詳細の問合せがあったが、応募には至らなかった。今後積極的な広報に努めたい。	0%	町民の環境意識向上と、リサイクル効果を創出するために、事業の継続と周知を行っていく。	町民課

(単位:千円)

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
36 看護師、保育士奨学金助成事業(ふさと奨学金) 36 【Ⅲ:①】移住定住の推進にも記載あり】	<p>ふさと人材育成奨学金支援助成金 鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の認定を受け、町内に定住する人を対象に奨学金返還額の一部を助成する。</p> <p>○対象になる業種など 製造業、情報通信業、薬剤師の領域、建設コンサルタンツ業、旅館・ホテル業、保育士、幼稚園教諭、農業、林業、漁業、農林水産業協同組合</p> <p>○助成内容 無利子の奨学金:貸与を受けた奨学金の返還総額の1/6、有利子の奨学金:貸与を受けた奨学金の返還総額の1/8、助成期間は、原則として県内の対象業種に就職してから8年間。 ◆45千円×2人=90千円(助成中) ◆60千円×5人=300千円(新規)</p>	<p>鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の認定者であることと条件としているため、県の認定、交付決定の際に、本町の制度についても周知した。新規申請の町内の対象者がいないため、新規申請がない。今後も県とよく連携を図りながら取り組んでいきたい。</p> <p>現在、下記の2名に助成中。 H28 1名(H29に取消) H29 2名(1名:H29から補助) (1名:H30から補助)</p>	<p>【評価:D 計画より遅れている】 新規の申請者はなし。県の制度に併せて町の制度の周知を引き続き行っていく。</p>	<p>鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の認定者で湯梨浜町に定住する方について、県の制度も周知し、今後も県とよく連携を図りながら取り組んでいく。</p>	教育総務課	
37 〈再掲〉 チャレンジシヨップ支援奨励金【1:③】商工業の振興にも記載あり】	<p>町内の空き店舗や空き家などを借りて事業を行う場合にその賃借料を補助する。 ◆補助金 新規分1件480千円</p>	<p>■2事業者に630千円を交付決定 空き店舗を活用した飲食店の創業を支援する。</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 相談1件あり。</p>	<p>事業開始後の固定費を支援するため、制度を継続して運用していく。</p>	産業振興課	
38 雇用促進奨励金①	<p>・雇用促進奨励金 町内の事業所が①シニア世代(55歳以上)②子育て女性(18歳以下の子どもがいる女性)③就職氷河期世代(昭和49年度から昭和58年度生まれ)④新卒者(コロナ禍影響)一の町民を正規の常用労働者として6か月以上継続して雇用された場合に、事業所に奨励金1人あたり200千円を交付する。 ◆補助金 200千円×4名分=800千円</p>	<p>1事業者から相談があったが、要件を満たさず補助対象とならなかった。</p>	<p>【評価:D 計画より遅れている】 経済情勢の急激な変化により、制度が現況にあわなくなっている。</p>	<p>中小企業・小規模企業振興会 議での検討を踏まえて、情勢にあわせた制度に改正する。</p>	産業振興課	
39 就職関連情報提供事業	<p>県内就職を支援するため、県外の大学生などに就職関連情報を提供する。</p>	<p>県外学生に就職関連情報などを提供する。提供している。</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 提供する情報を選定している。</p>	<p>本年度と同様に県事業を活用した情報提供を行う。</p>	産業振興課	
40 企業誘致用地等情報提供事業	<p>町内の企業誘致可能な土地や空き工場の情報を集約し、町ホームページなどを活用して情報提供を行う。</p>	<p>町ホームページなどを活用して情報収集と提供を行っている。</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 相談1件あり。</p>	<p>同様の制度を活用し、情報収集と提供を行う。</p>	産業振興課	
41 ビジネス人材移住支援事業	<p>東京圏から町内に移住した者が、鳥取県が実施するマッチングサイトに掲載された求人に就業し、3か月以上勤務している場合又は鳥取県が実施する起業支援金の交付決定を受けた場合に移住支援金を交付する。 世帯で移住した場合は1,000千円、単身で移住した場合は500千円 ◆補助金 1,000千円×1世帯=1,000千円</p>	<p>■交付実績 0件</p>	<p>【評価:D 計画より遅れている】 1世帯(2人)移住</p>	<p>今後も移住相談会等の機会を捉えPRに行っていくとともに、県と連携して取り組んでいく。</p>	企画課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			達成率	評価		
42 家庭子育て支援事業	<p>低年齢児(満2歳未満児)の家庭子育ての支援 生後6週を超え満2歳に満たない乳幼児を、屋間家庭で子育てをする父母又は祖父母に対し給付金を支給。 育児休業給付金(手当)を受けている期間を除く。 乳幼児1人につき1月30,000円。 ◆6,500千円/3カ月×4回=26,000千円</p>	<p>■11/30現在 申請受付:78件 ■R2.4~6月分(7/27支払):4,686千円 ■R2.7~9月分(10/26支払):4,856千円</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 11月末現在、2歳未満児265人のうち、こども園等入園児135人。家庭で子育てしている児は130人。家庭子育て率49.0%。 年度末に向けて、2歳未満児の入園児数は減少する見込み。</p>	<p>引き続き家庭で育児をする家庭への給付を行い、経済的不安を緩和し安心して育児環境を補助する。</p>	子育て支援課	
43 多子世帯保育料軽減事業	<p>令和2年度無償化、軽減 【国】年収360万円未満の世帯。同時入所問わず 第3子以降児無償、第2子半額 【県】年収360万円未満の世帯。第1子と同時入所の第2子、無償。年収360万円以上の世帯。同時入所問わず第3子以降児無償 【町】年収360万円以上世帯。同時入所問わず第2子軽減</p>	<p>計画内容に加えて、令和元年10月から国の幼児教育・保育の無償化により、原則3歳以上児の保育料が無料となり、保護者の負担がさらに減っている。 第3子以降児出生数(出産祝い金支給申請、決定数)決定 15件(11月末)</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 国の保育料無償化もあり、保育料の負担はかなり減っている。</p>	<p>3歳以上児等に対する国の保育料無償化されたが、3歳未満児に対する経過措置として現状制度を継続する。</p>	子育て支援課	
44 第3子以降中学校卒業祝い金支給事業 (第3子以降出産・入学・卒業祝い金支給事業)	<p>多子世帯児童の健全育成、当該世帯への経済的負担の軽減のため、出産・入学祝い金支給事業を拡大し、進学や就職準備時である中学校卒業時に祝い金支給を行う。 ◆見込み 3,830千円 出産時 50,000円 × 31名 = 1,550千円 小学校入学時 30,000円 × 39名 = 1,170千円 中学校卒業時 30,000円 × 37名 = 1,110千円 通信運搬費 9千円</p>	<p>■11/30現在 申請受付:47件 ■入学祝い金:900千円 ■出産祝い金:850千円</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 11月末現在、第3子の出生数は、17件(2件については12月以降の出生見込みは13人である。当初見込より1人減少見込)</p>	<p>引き続き、第3子が出生した保護者に対し祝金を支給していく。</p>	子育て支援課	
45 子育て世代包括支援センターの整備①	<p>子育て世代包括支援センター事業 相談支援のワンストップ拠点となる子育て世代包括支援センターを設置し好産、出産から就学前までの切れ目ない支援をめざす。 コーディネーターを配置し、必要な支援やサービスが受けられるよう情報提供、関係機関調整などを行う。 妊婦期、出産時から就園までの時期、就園時から就学までのそれぞれその時期に対象者全員への子育てで包括支援センターの整備の必要な方への子育てで包括支援センターの提供等を行う。 ◆消耗品費、通信運搬費 71千円</p>	<p>子育てでプラン配布:妊婦届出者全員 乳幼児健診受診者全員(86%) 子育てで応援プラン作成:妊婦届出者(年間目標45人 実績25人) 町内関係機関と情報共有:(年間目標6回 実績 要対協実務者会議1回子育て支援センターとの会3回 計4回)</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 概ね計画通りのプラン件数を作成でき、支援の必要な対象者へフォローができています。</p>	<p>引き続き、支援が必要な対象者へ支援プランが提供できるよう継続していく。</p>	子育て支援課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	評価	R3実施方針	担当課
46 子育て世代 包括支援セ ンターの整 備②	・産前産後サポート事業 妊産婦が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩み等につ いて、保健師による相談支援を行い、家庭や地域での孤 立感の解消を図るため、主に自宅に訪問するなどし、個 別に相談に対応する。 【アウトリーチ型】※新型コロナ対応による電話訪問も含 む 保健師が自宅に訪問し、個別に相談に対応する。 【デイサービス型】※新型コロナ対応で中止する場合あ り。 公共施設等で集団形式により、同じ悩み等を有する利用 者からの相談に対応する。 ◆職員賃金等 2,663千円、消耗品費 10千円	■産前産後サポート事業アウトリーチ型：28件 ■産前産後サポート事業デイサービス型 赤ちゃん広場8回 ハイハイ広場6回 プレ ママ広場5回 計19回	アウトリーチ型：年 48件(延) デイサービス型： 赤ちゃん広場12 ハイハイ広場7回 レママ9回 計28回	67.8%	【評価】C 計画どおりに進ん でいる】 必要な対象者へのサポート支 援を行うことができている。対 象者から、「保健師さんから の電話があり安心感があつ た」との評価も聞かれた。 引き続き、支援を実施してい く。	引き続き、産前産後サポート 引き続き、産後ケアや産前 産後ヘルパー派遣が必要 な対象者が、安心して受けら れる支援を構築し、継続してい く。	子育て支援課	
47 子育て世代 包括支援セ ンターの整 備③	・産後ケア事業 強い育児不安や家族等から産後の支援が得られない母 子に対し、医療機関委託や助産師、保健師訪問、ヘル パー派遣等、宿泊、日中預かりなど様々な方法で、心身 のケアや育児サポートを行う。心身の負担軽減により産 後の未然防止も図る。 【宿泊型】母子を産科医療機関に宿泊させ、休養の機会 を確保するとともに、心身のケアや育児サポートなどを 細かい支援を行う。 【デイサービス型】日中所した者に対し、個別又は集 団で心身のケアや育児サポート等の支援を行う。 ・母子来所 ・乳児一時預かり 【訪問型】産婦の状態を把握し、必用と思われる家庭に 助産師を派遣し、産婦の母体ケア及び乳児のケアを行 う。 【産前産後ヘルパー派遣事業】主に産後間もない時期 に、家事支援が必要な家庭にヘルパー派遣を行う。 ◆助産師報償費 23千円、委託料 204千円(ヘルパー派 遣・ショートステイ・デイサービス等)	■産後ケア事業訪問型3件 ■デイサービス型：2件 ■産前産後ヘルパー派遣：2回	訪問型：5件 宿泊型：2件 デイサービス型：1 1件 ヘルパー派遣事業 7回	28%	【評価】C 計画どおりに進ん でいる】 鳥取県産後ケア事業無償化 事業を導入し、利用料無料と した。 昨年度は0件であった産後ケ ア事業デイサービス型とヘル パー派遣事業の利用があり、 利用者の母体ケアに貢献で きた。 新生児訪問等により、引き続 き対象者の把握に努めてい く。 また、母子保健法の一部改 正により、産後ケアの対象産 婦が産後1年未満とされたこ とに合わせて、産前産後ヘル パー派遣事業対象者の利用 可能時期(現在産後1か月ま で)の延長も検討する。	引き続き、産後ケアや産前 産後ヘルパー派遣が必要 な対象者が、安心して受けら れる支援を構築し、継続してい く。	子育て支援課	
48 不妊治療費 助成事業	県の助成決定を受けた不妊治療を行う夫婦に対し、治療 の種類ごと、回数ごと、年度ごとに定める額を助成する。 【治療の種類】 ◆特定不妊治療費 見込み24件 2,300千円 ◆人工授精費 見込み4件 24千円 ◆不妊症治療費 見込み1件 50千円	10/31現在 ・特定不妊治療：助成申請者 実人員 9人 延人員 15人 ・人工授精：1人 ・不妊症治療：0人	利用件数 特定不妊治療24 件、人工授精4件、 不妊症治療1件	55.2%	【評価】C 計画どおりに進ん でいる】 例年どおりの助成の申請が あり、妊娠につながったケー スの申請もある。	引き続き助成事業を継続して いく。国や県が不妊治療の変 更等を行った場合は、準じて変 更を行う予定。	子育て支援課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
49 ファミリーサ ポートセン ター事業の 充実	子育てを応援してほしい人(依頼会員)と子育てを応援し たい人(提供会員)が育児の相互援助活動を行う。 調整役としてアドバイザー1人配置に係る賞金。 事業PR、会員の確保。 預かり体験。 ◆職員賞金等 1,960千円 ◆講師謝金、消耗品、郵送料 24千円 ◆活動保険料 83千円	11/30現在 実利用者数 8人	【評価:C 計画どおりに進ん でいる】 11/30現在、R2年度新規依頼 会員数は9人、提供会員は2 人と少しずつ会員数を延ばし ており、今後も実利用者数は 増える見込みである。だが依 頼はあるがマッチングが成立 しない場合も多々ある。	88.8%	引き続き提供会員を増やし 依頼にすべて対応できるよう な環境を整備していく。	子育て支援課
50 病児・病後 児・夜間保 育事業	◆病児保育:127人(R1実績) (定住自立圏構想での取 組、事業委託者パバール園。実施場所県立厚生病院) 対象者:在園児及び小学校3年生以下 983千円 ◆病後児保育:19人(R1実績) (定住自立圏構想での取 組。事業委託者十字会。実施場所野島病院) 対象者:在園児及び小学校3年生以下 425千円 (上記は引き続き定住自立圏 で取り組む)	◆病児保育(10月末) 延べ利用者数:45人(実人数:7人) ◆病後児保育(10月末) 延べ利用者数:2人(実人数:2人) 11月末見込(延べ人数) 病児保育:51人 病後児保育:3人	【評価:D 計画より遅れてい る】 新型コロナウイルス感染症拡 大の影響で、利用希望者の 減少や受け入れ制限等があ り、例年に比べ利用者が少 なくなっている。	36.9%	引き続き、病児保育施設1 か所、病後児保育施設1か所 は定住自立圏で取り組む。 新たに、R4年度から町内で 病児保育施設を開設する計 画が進行中。	子育て支援課
51 SNS等によ る子育て支 援情報の提 供	妊娠出産子育て期全般にわたる必要な情報をリアルタイ ムに提供していく方法としてフェイスブック等を立ち上げ る。 子育て支援アプリを導入し、妊娠期から子育て期におけ る子育て情報提供をタイムリーに行える体制整備を行う。 関係機関との連携会議を定期的に行い、情報連携を強 化していく。 委託料 396千円	令和2年度母子手帳交付数(妊娠届着数) 80件 令和2年度新規登録者数78件	【評価:C 計画どおりに進ん でいる】 妊産婦や子育て中の保護者 に対し、母子手帳アプリを活 用した情報発信ができてい る。登録者も増加している。	97.5%	子育て世代包括支援センター 事業の一環として継続してい く。	子育て支援課
52 放課後児童 クラブ・放課 後子ども教 室の推進①	放課後児童クラブ5カ所で運営。 放課後子ども総合プランに基づき、3小学校においては、 放課後子ども教室と一体的に実施する。コミュニティ施設 で実施する児童クラブについても、教育委員会と連携を 取りながらゆりはま自主学習の広場事業と連携実施す る。 ◆羽合第1:8,204千円、羽合第2:14,094千円、東郷第1: 8,072千円、東郷第2:8,355千円、泊:8,002千円	各児童クラブ利用実人数 羽合第1:65人 羽合第2:130人 東郷第 1:101人 東郷第2:69人 泊:73人	【評価:C 計画どおりに進ん でいる】 現時点で利用希望者全員が 利用している。	66.6%	引き続き放課後の時間帯の 子どもを受け皿を確保し、子 どもの健全な育成に努める。	子育て支援課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	評価	R3 実施方針	担当課
放課後児童クラブ 放課後子ども教室の推進② ゆりはま自主学習の広場事業(放課後子ども教室)	町内3小学校の空き教室を使用し、年間30回程度の学習支援活動を行う。週1回は放課後(月3回予定)と夏季休業中に開催し、小学校低学年からの学習習慣の定着を目的とする。指導については、教員OBを含めた地域人材を活用する。 ◆報償費 977千円、消耗品 44千円 保険料 88千円、通信運搬費 12千円	各小学校空き教室を利用し、月3回程度で教室を開催。 目的:児童が放課後を安心、安全に過ごすことのできる環境整備、学習習慣の定着を図る。 参加児童 羽合小:19名(1年生)、泊小10名(1~3年生)、東郷小:24名(1・2年生) 指導者:14名(教員OB、元役場職員、元保育士など地域の方) 今年度の事業を始める前に、「ゆりはま自主学習の広場連絡協議会」を各教室ごとに開催。参加者は、学校、指導者、放課後児童クラブ支援員代表、事務局担当者で、連携しながら事業を進める体制づくりに努めた。	連絡協議会を開催し、各小学校等で子ども教室を実施し、学習習慣の定着を図る。 児童数50名とす	86%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 参加児童合計53名。各教室ごとに連絡協議会を開催。各教室とも、指導者が宿題への支援と補充プリント等を準備し、児童が意欲的に学習できる環境づくりに努めている。そのため、落ち着いた運営ができています。 連絡協議会開催 1/1=100% 実施回数:18/30=60% 参加児童数:53/50人=100%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 参加している生徒たちは意欲的に学習に取り組んでいる。生徒の基礎学力の定着と学習習慣の定着に寄与していきたい。 15人/150人×100=10% 150人:1年生全生徒数 15人:参加生徒数 実施回数:12/20回=60%	参加児童を対象に2割程度を指す。(羽合小、東郷小20名程度、泊小10名程度)指導者の安定的確保を目指す。各教室とも5名程度が目指す。 連絡協議会を開催し、関係者が連携して事業を進められるように努める。	教育総務課
放課後児童クラブ・放課後子ども教室の推進③	放課後や週末などにおける子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を確保し、地域の方々の協力を得て、子どもたちに学習や様々な体験、交流活動等の取り組みを実施し、子どもたちが地域との交流を深め、心豊かで健康やかに過ごす環境づくりに推進する。 R1年度は、橋津地区に新たに1教室を開催し、羽合地域(長瀬、東田後、橋津)、東郷地域(舎人、大介)の、計5教室で事業を実施した。R2年度も引き続き5教室で事業を実施予定。 ◆報償費(5教室分) 2,773千円、消耗品費 120千円	平日の放課後や週末など、子どもたちの安心・安全な居場所、活動拠点を確保し、学習支援や様々な体験活動の機会を提供している。4月から東郷地域、羽合地域において5教室を開設し、地域の方々の協力を得ながら事業を実施している。 【参加延人数】(11月末時点) (R1) 長瀬キッズクラブ 33人(97人) 東田後区寺子屋教室 465人(1001人) 舎人 229人(474人) 大介 73人(79人) はわいっ子がんばり教室 482人(234人) 合計 1282人(1885人)	放課後や週末などにおける子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を確保する。 年間参加延児童数 2,600名以上とする。	30%	【評価:D 計画より遅れている】 それぞれの教室で事業が実施され、子どもたちの居場所の提供、学習支援、体験活動などが実施されているものの、新型コロナウイルス感染症の影響で一部の教室が開催を中止したり、参加者数が減少したりしており、目標の達成が困難になっている。	引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しながら、身近な地域を徹底しながら、後や休日の安全・安心な居場所としての放課後子ども教室を実施できるよう、指導者と連携を図りながら進めていく。	生涯学習・人権推進課	
ゆりはま自主学習の広場事業(ゆりはま地域未来塾)	在住の地域人材や学生ボランティア等の協力を得て、平日の放課後や土曜日の部活動終了後に、希望する中学1年生を対象に実施。基礎学力の定着と学習習慣の定着を目指す。 ※国事業:『学校・家庭・地域の連携協力推進事業』を活用(補助率:国、県、市町各1/3) ◆報償費 289千円、消耗品 22千円、郵送料 7千円 保険料 48千円	湯梨浜中学校1年生15人の参加を得て、平日5回、土曜5回の計12回を開催した(10月19日現在)。地域住民11人が学習支援にあたったことを受け、開催回数を16回から20回に増やし、各月2回実施することとしており、予定どおり開催することができています。第1回目を開催するにあたって、運営委員会を実施し、生徒の支援の在り方等について共通認識を持って取り組むことができています。	運営委員会を開催し、中学校1年生を対象に地域未来塾を実施し、基礎学力と学習習慣の定着を図る。 対象生徒数の約20%の参加を目標とする。	55%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 参加している生徒たちは意欲的に学習に取り組んでいる。生徒の基礎学力の定着と学習習慣の定着に寄与していきたい。	コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を一体的に推進していく中の1つの活動として継続していく。地域からの参画を増やしていきたい。	教育総務課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	評価	R3 実施方針	担当課
56 学校支援ボランティアの推進	各小中学校が作成した学校支援ボランティア人材バンクに登録された学校支援ボランティア登録者へのボランティア保険加入手続きを行う。また、各校だけでは要請するに困難なボランティア内容に対し、他校人材バンクへの登録者情報が必要に応じて情報提供し、実施困難と思われるボランティア内容の実施応援体制を支援する。 ◆ボランティア保険料 88千円	登下校の見守り活動や環境整備、学習支援等のボランティアが行われ、子どもたちの学び、成長、安全確保等に大きく寄与している。昨年度から学校区をこえて広がりを果たしている。登下校の見守りを行う「オレンジベスト」隊がさらに増えている。また、湯梨浜中学校1年生が地域の伝統文化保存団体等から伝統芸能を学ぶ学習活動も、今年度から開始される。	各学校のニーズに沿った地域による学校支援を実施する。 小中学校で150名登録。	100%	【評価】C 計画どおりに進んでいる。 羽合小47人、泊小92人、東郷小98人の計197人を学校支援ボランティアとして登録している。コミュニティスクールの取り組みにより、着実に人数を増やしている。湯梨浜中学校も地域学校協働活動推進員を中心に支援活動は行われている。	上記と同様、コミュニティスクール、地域学校協働活動を一体的に推進していく中で、学校の応援団としての学校支援ボランティア活動をさらに充実させていく。	教育総務課	
57 ふるさと教育の推進	総合的な学習の時間で行われている地域学習の取組みを拡充する。各小・中学校独自の取組みにおける地域人材の活用や消耗品等の支援を行う。 【羽合小学校】体験学習(町探検、文化伝承、平和学習ほか) 【羽合小学校】体験学習(高学年者、赤ちゃんほか)132千円 【泊小学校】体験活動(水産教室、泊貝がら節伝承、ワカメ栽培、GG体験ほか)養育 102千円 【東郷小学校】体験学習(梨づくり、東郷池体験活動、GG体験ほか)、環境教育(サケ飼育)98千円 【湯梨浜中学校】湯梨浜調べ、職場体験、観光地PR動画制作ほか 90千円	新型コロナウイルス感染症により、計画どおりにふるさと教育を進めることができず、可能な方法で地域学習を行っている。羽合小:命の大切さを考える学習(助産師来校)、泊小:泊貝がら節、梨づくり、クラフト活動でのサウンドボード制作、東郷小:梨づくり、湯梨浜中:家庭部による七夕茶会 ふるさと湯梨浜についてのアンケートは12月頃に実施予定。	各学校でふるさとに愛着を持つ児童生徒の育成をめざし、各種専業等を実施する。 アンケート目標 85%以上。	37%	【評価】D 計画より遅れている。 今年度は、事業所の訪問や外部講師の招聘などが困難であり、各学校が可能な方法で、補助金等も活用しながら地域学習を進めている。 専業実施 11/29回=37% アンケートは12月予定	今年度と状況がかわれれば、事業所を訪問したり、外部講師を招いたりするなど、地域や現場の声を直接感じることでできる学習を行っている。	教育総務課	
58 小学校社会科副読本作成事業	町に誇りと愛着を持ち、大人になっても湯梨浜町に住みたいという気運を子供の時から形成していくため、さらに社会科の学習時に同時に町を勉強するため、小学3・4年生を対象に社会科の副読本を作成しふるさと教育の推進を図る。 改善点を確認するため編集委員会を開催(小学校社会科教諭等)1回開催。 ◆報償金2,400円×3名×2回=15千円 ◆印刷費 324千円	町内小学校3年生を対象に、年度初めに社会科副読本を配布。各小学校において、3・4年生の社会科の学習を中心に副読本を活用している。副読本を授業のきっかけづくりに活用し、教材開発をしている指導者もいる。 第1回編集委員会を開催(8/24)。現在、R4発行の副読本へ向けてあらたな単元の資料を収集中。今年度は案の原稿を授業で活用し、R3に本格的に新規単元の編集作業を行う予定。11月頃に第2回編集委員会を開催予定。	編集委員会を開催し、今年度活用し、の改善点を来年度の副読本発行の際に修正する。	50%	【評価】C 計画どおりに進んでいる。 教科書が改訂されたことにより、副読本へ新たな単元を盛り込みたいという要望があった。学校が副読本を活用し進めたいという強い思いを持っていく。 編集委員会進捗 1/2回開催=50%	授業で活用していただく副読本となるよう、学校の意見を聞きながら、副読本を作成していく。	教育総務課	
59 ワーク・ライフ・バランスセミナー事業	生活と仕事を両立できる職場環境づくりについて理解を深め、子育て等しやすい環境づくりを推進するため、町内中小企業、一般勤労者等を対象にワーク・ライフ・バランスセミナー開催する。 ◆費用費 10千円 ◆委託料 200千円 ◆男女共同参画環境づくり奨励事業補助金 170千円	鳥取県男女共同参画推進企業の新規認定0社 男女共同参画環境づくり奨励事業補助金申請0件 中小企業向けワーク・ライフ・バランスセミナーは現時点で未実施。	鳥取県男女共同参画推進企業の認定企業数:17社(前年比1社増)	0%	【評価】D 計画より遅れている。 新型コロナウイルスの影響もあり企業訪問が行えないが、町商工会及び県の担当課と連携し実施することとしている。	企業訪問等による男女共同参画環境づくり奨励事業補助金の周知を行うことで、認定数を増やしていく。	企画課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
<p>地域で取り 組む介護予 防活動推進 事業</p> <p>60</p>	<p>【地方創生推進交付金】</p> <p>①養成した100名の介護予防・健康づくりリーダー(ゆりりんメイト)に地域で活躍してもらうため、継続した働きかけや支援を行う。また、ゆりりんメイトを含む地域住人が担い手となり、新たに健康づくり・介護予防・フレイル予防等を目的とした地域サロン活動に取り組む地域・団体等を増やすため、短期集中サロンの実施や地域サロン活動に対する助成を行う。</p> <p>②認知症診断プログラムやフレイル評価・管理システムを導入して、高齢者等の状態を判定し、町が実施する運動教室や介護予防教室、新たに取り組む脳活トレーニング事業や地域サロン等を体系化して個々の状態に合わせたプログラムを提供するとともに、プログラム実施前後の個々の状態を管理・評価して段階に応じた適切なプログラムにつなげていく。</p> <p>◆脱フレイル大作戦 3,079千円 キックオフ講演会等謝金 34千円 消耗品 20千円、通信料・郵送料 80千円 プログラム導入委託料、保守料 1,161千円 システム使用料 1,430千円 備品購入費 354千円</p> <p>◆脳活トレーニング事業 1,369千円 消耗品費 20千円、郵送料 5千円 事業委託料 1,344千円</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響により、新たに短期集中サロンを実施する地域や介護予防等を目的としたサロン活動に新規に取り組む団体は、11月末現在で0件である。</p> <p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期集中サロン実施(予定)団体:0団体 ・介護予防活動支援補助金申請団体:7団体(うち新規申請団体 0団体) <p>②認知症診断プログラム・フレイル評価システム・運動処方プログラムを導入し、町が実施する介護予防教室や健康会場で活用しており、各種プログラムの判定結果により機能低下が見られる高齢者には、町が実施する運動教室や介護予防教室等への参加を勧めるなど、個々の状態に合わせた適切なプログラム等へつなげている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物忘れ相談プログラム実施:224人 ・運動処方プログラム実施 : 15人 合計:239人 <p>9月からは、軽度認知障害(MCI)/物忘れ相談プログラムが10~13点)の人を対象に、運動・知的活動・座学を効果的に組み合わせたプログラムを提供する「脳活トレーニング事業」を新たに開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳活トレーニング事業(週1回)参加者:14人(2事業所) 	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新たに健康づくり・介護予防・フレイル予防等を目的とした地域サロン活動に取り組む団体・地域・団体を年間3団体増やす。 ②導入したプログラムで700人以上の個別評価を実施する。 <p>17%</p>	<p>【評価:D 計画より遅れている】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルス感染症の影響により、新たに短期集中サロンを実施する地域や介護予防等を目的としたサロン活動に新規に取り組む団体は11月末現在で0件となっており、しづらくは難しい状況が続くものと思われる。現在、サロン活動を休止している地域には感染予防対策を講じた上でサロン活動を再開していく。できるだけ声掛けを行っている。また、短期集中サロンについては、今年度だけでなく、来年度に向けても声掛けを行っている。 ②導入したプログラムを活用し、健康会場で物忘れ相談プログラム等の個別評価を実施している。新型コロナウイルス感染症の影響で地域の介護予防教室やサロンの実施は限られるが、引き続き評価システムを活用していく。 <p>・239人/700人×0.5=17% 合計17%</p>	<p>長寿福祉課</p>	
<p>歯・口の健康づくり推進事業</p> <p>61</p>	<p>今年度からフッ化物洗口事業が教育総務課に移行。</p> <p>健康推進課としての関わりとしては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小中学校でのフッ化物洗口実施のアンケート結果集計。 ②必要に応じて「小学校におけるフッ化物洗口手引き」及び「中学校におけるフッ化物洗口手引き」の見直し。 ③説明会の要望があれば、出向く。 	<p>①アンケート結果集計</p> <p>②必要に応じた手引きの見直し</p> <p>③必要に応じた説明会の開催</p> <p>66%</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フッ化物洗口の実施アンケート結果集計は行うことができたが、アンケート回収から結果集計までに時間を要したため、タイムリーな情報提供ができなかった。《反省点》 ②関係機関に内容確認し、必要箇所の修正を実施した。 ③今年度に説明会の要望はなく、出向いていないため、現時点での達成率は0%とした。 	<p>令和2年度より、担当課が健康推進課から教育委員会に移行。今後必要に応じて連携しながら、事業の進捗を図っていく。</p>	<p>健康推進課</p>	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績		KPI		R3 実施方針	担当課
		目標	達成率	評価	評価		
62 健康相談・ 健康教室等 の実施①	温泉を活用したウォーキング教室の実施(龍鳳閣) 年間計画に沿って実施(週2回、年83回) ◆講師謝金 415千円	健康づくりのための水中歩行を月～木曜日に龍鳳閣にて実施。週2回講師への謝金を町から支払い、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4～6月の教室開催を中止とした。 ◆参加延べ人数 7月:172人、8月:57人、9月:179人 10月:187人 (合計:595人)	【目標】 教室参加人数を1,000人以上	60%	【評価:D 計画より遅れている】 ・4～6月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止とした。 ・7月以降は、毎月教室を開催している。	水中での歩行は体への負担が少なく、高齢者等でも取り組める内容であり、町民の健康づくりのため、引き続き事業を実施していく。さらなる参加者の増加につながるよう教室開催に努める。	健康推進課
63 健康相談・ 健康教室等 の実施②	【地方創生推進交付金】 《つみたて貯蓄運動教室他》 町内の体育施設を利用して、健康体操を中心に関催し、運動の習慣化や健康づくり、介護予防として取り組む。 ◆講師謝金 144千円 ◆消耗品 41千円 ◆通信運搬費 2千円 ◆委託費 704千円	◆平日・昼に開催する運動教室(つみたて貯蓄運動教室)は4～6月は新型コロナウイルス感染症予防のため、屋外(ハワイ夢広場)で開催。7月からは、とまり教室を泊体育館で、どうこう教室を羽衣会館で週1回開催中。 ◆「運動教室カレンダー」を作成し、6月に全戸配布。 ◆平日・夜に開催する運動教室(ココカラ運動教室)について、6/24付で龍鳳閣に委託し契約締結。7月から週1回開催。 《7月以降の実施予定回数:110回》 ①つみたて貯蓄運動(東郷) 38回 ②つみたて貯蓄運動(泊) 36回 ③ココカラ運動教室 36回 110回×15人=1,650人	【目標】 各運動教室参加者 15名/回 【目標変更】 教室参加人数を1,650人以上	32%	【評価:D 計画より遅れている】 ・4～6月は新型コロナウイルス感染症予防のため、運動教室の実施方法、人数等予定どおりに開催することができなかった。 ・7月から週1回開催しているが、新型コロナウイルス感染症予防のため、ココカラ運動教室とつみたて貯蓄運動という教室については会場の広さにより定員を20人⇒15人に減。人数制限があるため、積極的な広報がしにくい状況である。 《7月～10月累計人数》 ①つみたて貯蓄運動(東郷) →187人 ②つみたて貯蓄運動(泊) →135人 ③ココカラ運動教室 →203人 合計:525人	東郷・泊地域の教室は定着したが、現在、運動教室を実施していない羽合地域での教室開催を検討する。 現在の教室内容についても、参加者増加につながるよう見直しを進めていく。	健康推進課
64 健康相談・ 健康教室等 の実施③	【地方創生推進交付金】 居住地区周辺でのウォーキング教室開催により、ウォーキングの習慣化を図り、町民の健康につなげる。 ◆委託費 123千円	前年参加者 計61人 6/7 中央公民館にてウォーキング教室実施。参加者24名。 町内企業向けに、ウォーキング教室受付についてチラシ作成・配布。	【目標】 運動効果の周知により、ノルディックウォーキング教室の参加者を前年比110%とする。	36%	【評価:D 計画より遅れている】 今年度は、自治会の健康教室及び町内企業を対象に、随時受け付け、ウォーキング教室を実施する。新型コロナウイルスの影響等により、健康教室の開催を自粛する自治会が多くみられた。商工会を通じて町内企業向けにチラシを配布したが、引き続き広報を行い、実施にあたっては感染予防を徹底する。 ・昨年度参加者 計61人 ※今年度 24人	町民の健康づくりのため、引き続き取り組みを実施する。教室を開催する対象者や、教室の内容についても、参加者の増加につながるよう見直しを進めていく。	健康推進課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	R3 実施方針	担当課
65 鳥取看護大 学による 「まちの保 健康」との 連携	【地方創生推進交付金】 専門的知識や技術を有する看護大学と連携を 図りながら、地区単位で取り組む健康づくりを推 進し、町民の健康増進・健康寿命の延伸を図 る。 ◆消耗品費 5千円 (地区での健康教室教材費) ◆委託料 35千円 (まちの保健室鳥取看護大学委託料)	6月28日開催予定であったが、新型コロナコ ロナウイルス感染症拡大の影響により、1 月に開催を延期した。	【目標】 原地区(3年 目)で1回/年、 まちの保健室 の開催	0%	【評価:D 計画より遅れてい る】 新型コロナウイルス感染症拡大 の影響により開催を延期し ているため、現在、看護大学 と内容の調整を行っている。	来年度、実施予定はないが、 地区からの要望があれば、健 康教室などで対応していく。	健康推進課
66 SIBを活用 した飛び地 型自治体連 携事業(食 と健康のま ちづくり事 業)	【地方創生推進交付金】 タニタ健康プログラムの推進 ・タニタ健康システムの運用 ・タニタ健康プログラムの推進 《SIBを活用した飛び地型自治体連携事業》 ◆普通旅費 254千円 ◆消耗品費 770千円(ポイント景品) ◆通信運搬費 206千円 ◆委託料 16,091千円 ◆使用料及び賃借料 3,927千円 (活動量計ID、サイト等 使用料)	■新型コロナウイルス感染症拡大によ る影響を受け、実施予定事業の中止、 連携会議の延期等が発生したため、職 員や知人、小単位の運動教室等を中心 に広報活動を展開した。 ■コロナ禍の影響による健康二次被害 を防止するため、歩数の増加量に応じて インセンティブを付与するキャンペーンを 7月に開始、11月末まで実施する。 ■7月28日、連携事業に関する合同記 者会見及び連携会議を大阪府で開催。 コロナに負けない健康都市宣言を行っ た。 ■8月3日、地方銀行に対し、(株)タニタ ヘルスリンクが資金提供に関する説明 会を開催した。	【目標】 運動管理シ ステム(活動量 計等)を利用 した「ゆりはま ヘルシーくら ぶ」の会員を 350名とする (R2)。 ※最終1,400 名とする (R6)。	97%	【評価:C 計画どおりに進ん でいる】 ・町報等での広報や、既参加 者からのクオチコミによる誘引 により、本年度目標数に近づ いている。 ・10月31日、運動継続のコツ 等に関する会員セミナーを開 催した。今後、11月下旬に計 画している健康づくり講演会 をはじめ、各種セミナーを実 施していく予定。	次年度520名(新規170名)の 参加に向けて取り組む。連携 自治体等のノウハウ、良策を 取り入れながら、町民の健康 増進のきっかけづくり的事業 から、柱となる事業へと進展 できるよう事業を展開してい く。	健康推進課
67 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進① 【Ⅲ:①移 住定住の推 進にも記載 あり】	【地方創生推進交付金】 ・生涯活躍のまち推進事業(地方創生推進) 28年度に策定した生涯活躍のまち基本計画に 基づき、都市部をはじめとする移住者や地域の 方々が、充実した生活と安心して暮らせる「湯 梨浜版生涯活躍のまち」の実現に向けて、「湯 梨浜まちづくり株式会社」等、官民が連携し一体 となり推進していく。 ◆生涯活躍のまちPR業務(情報発信)7,404千 円(旅費823千円、役員費1,793千円。委託料 4,788千円) 令和2年度は、レークサイド・ヴィレッジゆりはま 開発事業を含む町のPRを行う。 ◆生涯活躍のまち動画制作業務15,950千円 知名度のある女優を起用したPR動画、電子雑 誌を作成しアフィリエイトでの関係人口、移住 定住の促進を図る。	レークサイド・ヴィレッジゆりはまの造成 は完了し、一般分譲地の入居、福祉 ゾーンの一部の事業は始まった。都市 部でのPRは、新型コロナウィルス感染 症の状況を見極めながら、実施する予 定。影響により実施できていない。今後 は、関係人口を取り上げて、生涯活躍の まちとともにPRを行う。 生涯活躍のまち動画、電子雑誌「旅色」 を11月25日に公開した。今後は、本動画 をPRに活用していく。	【目標】 ①県外からの 移住者:185 人(R2)、925 人(R6) ②CCRC事業 に参画する民 間事業者・団 体数:1団体 (R2)、35団体 (R6)	73%	【評価:D 計画より遅れてい る】 レークサイド・ヴィレッジゆりは ま事業は順調に進んでいる。 生涯活躍のまちPR事業は、 都市圏でのセミナーを開催予 定。新型コロナウィルス感染 症の状況により、オンラインで の実施など検討をする。 ①県外からの移住者:85人 人/185人=46% ②CCRC事業に参画する団 体:2団体 100% (46%+100%)/2=73%	引き続き、新型コロナウィル ス感染症の状況をみながら、 生涯活躍のまちの東京都で の窓口であるカラフルと連携 をして、都市圏でのPRをオン ラインでの手法を含めて実施 する。	みらい創造室

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			達成率	評価		
68 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」の 推進①	【地方創生推進交付金】 ・生涯活躍ポータル「カラフル」出展(地方創生 推進) 生涯活躍のまちに取組む全国5自治体(北海道 東川町、福島県伊達市、山梨県都留市、湯梨浜 町、南部町)が連携して東京に相談窓口を設置 して、移住定住へ向けた相談受け付けや、イベ ントを開催して生涯活躍のまちの情報発信を突 進する。	<ul style="list-style-type: none"> 4月30日オンラインでの会議を実施 5月23日オンラインでのイベントを突 施。延べ44人が参加した。 SNSでの情報発信を強化して、各市 町の住民からのメッセージを発信した。 10月24日オンラインでの当町単独イ ベントを開催し、8名の参加があった。 	<p>【評価:C 計画どおりに進ん でいる】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の 影響により、一筋予定してい たイベントが実施できていな いが、オンラインを活用してイ ベントやPRを実施できてい る。</p> <p>①県外からの移住者:85人 人/185人=46% ②CCRC事業に参画する団 体:2団体 100% (46%+100%)/2=73%</p>	<p>【評価:C 計画どおりに進ん でいる】</p> <p>生涯活躍のまちの拠点である 総合相談センターどれみでの運 営を中心に、湯梨浜まちづくり 株式会社が取組むまちづくり 関連事業の維持、空き家の利 活用、情報発信を引き続き行 う。</p>	<p>R3 実施方針</p> <p>東京での生涯活躍のまちの PR、相談窓口として、引き続 きカラフルへの出展を続け、 各イベントにより町の取組を PRしていく。</p>	みらい創造室
69 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進② 【Ⅲ:①移 住定住の推 進にも記載 あり】	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊事業(生涯活躍のまち) 地域おこし協力隊3名を任命し、「湯梨浜町版生 涯活躍のまち」実現へ向けて設立された「湯梨 浜まちづくり株式会社」が取り組む多岐にわたる 担い、活動するもの。 【地域おこし協力隊】 ・まちづくり会社で活動(3名) 11,976千円 	<p>生涯活躍のまちの拠点である総合相談 センターどれみの運営を担いつつ、生涯 活躍のまちの中で空き家の利活用促進 と、町の情報発信を行っている。</p> <p>■空き家の利活用(2名)については、毎 月の総合相談センターどれみでの空き 家相談日を継続開催しており、相談を受 け付けている。また、東郷地域を中心に 空き家利活用アンケートを実施し、新た な空き家掘り起こしを行っている。</p> <p>■情報発信(1名)については、9月より 地域おこし協力隊Facebookページを「ゆ りはまフェローズ」と改めて、関係人口を 創出するための情報発信を行い、関係 人口「ゆりはまフェローズ」が23件増加して いる。(11月18日現在)</p>	<p>73%</p> <p>【評価:C 計画どおりに進ん でいる】</p> <p>空き家情報バンクへの登録へ 1件結びつくなど、空き家利活 用は、着実に進んでいる。ま た、情報発信については、 Facebookページを「ゆりはま フェローズ」に変更したこと により、「いいね」をしたフェロ ー(関係人口)の認定数が、23 件増加している。</p> <p>①県外からの移住者:85人 人/185人=46% ②CCRC事業に参画する団 体:2団体 100% (46%+100%)/2=73%</p>	<p>73%</p> <p>【評価:D 計画より遅れてい る】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡 大の影響により開催を延期し ているため、現在、看護大学 と内容の調整を行っている。</p>	<p>R3 実施方針</p> <p>生涯活躍のまちの拠点である 総合相談センターどれみでの運 営を中心に、湯梨浜まちづくり 株式会社が取組むまちづくり 関連事業の維持、空き家の利 活用、情報発信を引き続き行 う。</p>	みらい創造室
70 〈再掲〉 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進④ 【Ⅲ:①移 住定住の推 進にも記載 あり】	<ul style="list-style-type: none"> 【地方創生推進交付金】 専門的知識や技術を有する看護大学と連携を 図りながら、地区単位で取り組む健康づくりを推 進し、町民の健康増進・健康寿命の延伸を図 る。 ◆消耗品費 5千円 (地区での健康教室教材費) ◆委託料 35千円 (まちの保健室鳥取看護大学委託料) 	<p>6月28日開催予定であったが、新型コロナ ウイルス感染症拡大の影響により、1 月に開催を延期した。</p>	<p>0%</p> <p>【評価:D 計画より遅れてい る】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡 大の影響により開催を延期し ているため、現在、看護大学 と内容の調整を行っている。</p>	<p>来年度、実施予定はないが、 地区からの要望があれば、健 康教室などで対応していく。</p>	健康推進課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課	
			目標	達成率			
71 縁結び支縁員事業	晩婚化や少子化が進む中、結婚を望む男女の出会いを創出する「縁結び支縁員」の活動を支援することにより人口増加や次世代を担う住民の定住を促進する。 ◆縁結び支縁員 情報交換会、研修会 出席報償金、旅費 123千円 ◆婚姻成立時報償金 30千円	<ul style="list-style-type: none"> ■中部広域情報交換会 ■湯梨浜町縁結び支縁員連絡会・情報交換会 ※新型コロナウイルスの影響により会議が開催できていない。 ◆縁結び支縁員 情報交換会、研修会 出席報償金、旅費 0千円 ◆婚姻成立時報償金 0千円	縁結び支縁員事業等により婚姻した件数：年1件	0%	【評価】D 計画より遅れている 新型コロナウイルスの影響により活動が出来ていない。	新型コロナウイルスの状況を勘案し、中部広域情報交換会等も開催される。中部広域でのマッチングについて、より取り組みやすい内容に変更し、マッチングの機会を増やすことで、成婚につなげていく。	企画課
72 婚活イベント事業(広域連携)	中部地区市町と連携し、婚活イベントを開催することにより、結婚を希望する人の出会いの機会を広域的に拡大するなど、少子化傾向の改善に取り組み。 ※中部定住自立圏事業で実施する。 ・広域連合負担金 200千円	鳥取中部ふるさと広域連合と中部市町が連携し、以下のイベントを実施予定。 ■セミナー オンラインで実施を検討 ■婚活イベント 規模縮小して実施予定 12/12、1/23予定 ■えんとりー共催イベント 2/21予定	令和2年度に広域連携による婚活イベントを実施。 パーティー型イベント：2回 婚活セミナー：2回	0%	【評価】D 計画より遅れている 新型コロナウイルスの状況を勘案し、今後実施予定。	新型コロナウイルスの状況を勘案し、オンライン、規模縮小等の対策を行ったうえで、今後実施される。	企画課

(単位:千円)

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
73 LULUタウン 促進事業	地域の将来を支える人材の呼び込みを図るため、都市圏での移住定住相談会に参加し、本町の魅力を積極的に発信する。また、移住コーナーを設け、移住相談窓口として各種支援制度の紹介や空き家、住宅情報の提供などを実施し、移住促進を図る。 《R2予算額》4,133千円(旅費350千円、需用費241千円、役務費42千円、委託料3,500千円)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により都市圏での移住定住相談会に参加できなかった。しかし、町独自のオンライン移住相談会を3回開催、全国区のオンライン移住相談会に1回参加。県主催のオンライン相談会に1回参加し、相談会内で合計5組の移住検討者が相談を受けた。	移住について具体的な相談に入っている相対者数:5人	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 具体的な相談に入っている相対者7人(相談会1人、お試し住宅利用者2人、実際に移住につながった4名)	移住コーナーコーナーなど連携し、オンライン移住相談会等に参加しながら町のPRをするとともに、今後さらなる移住者増加を目指す。	みらい 創造室
74 空き家情報バンク活用 促進事業	①空き家情報バンクの運用により空き家所有者と利用希望者のマッチング、紹介を行う。 ②空き家情報バンク登録物件に県内からの町外者が転入する場合に、空き家所有者が行う改修等の費用を補助する。 上限:250千円 補助率1/2 予算:250,000円×1件=250,000円 《R2予算額》 補助金 250千円	①空き家情報バンク物件成約:0件 ②空き家改修補助金利用:0件	①町外(県内)利用者からの空き家バンク物件成約数:1件 ②町空き家改修補助金利用:1件	【評価:D 計画より遅れている】 空き家バンク利用希望者の新規登録者数が16件と前年実績15件を上回ったが、内見数は2件となっており、成約に補助金の利用も0件となっている。	空き家情報バンク制度及び補助制度について、積極的に制度周知を図りながら、今後も事業を継続する。また、登録者への空き家情報の提供を行い、内見数及び成約数の増を図る。	企画課
75 空き家対策 事業	空き家改修事業補助金 県外からの移住定住希望者に空き家を提供する人に対し、空き家の改修費を最大500千円補助する。 《R2予算額》 補助金 500千円×2件	空き家改修補助金利用:0件	移住希望者へ空き家提供:2件	【評価:D 計画より遅れている】 空き家情報バンクによる物件成約が無く、補助金の利用も0件となっている。	空き家改修補助制度については、積極的に制度周知を図りながら、今後も事業を継続する。	企画課
76 移住定住者 住宅支援事業①	県外の人又は県外から町に転入して6か月を経過していない人が住宅の新築、購入又は改修をする場合に補助する。 《R2予算額》 4,500千円 移住定住(土地開発公社)2,000千円×1件 移住定住2名以上1,000千円×2件 移住定住1名500千円×1件	■交付決定 3件 移住定住2名以上1,000千円×2件 移住定住1名500千円×1件	県外からの転入者の定住:4件	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 5名が定住予定。	今後も引き続き補助制度の周知を図り事業を継続し、本町への移住定住の魅力を高めたい。	企画課
77 移住定住者 住宅支援事業②	・ゆりはま定住モデルハウス事業 土地開発公社分譲地を購入した上でモデルハウスを建築し、1年以上運営する事業者(ハウスメーカー等)に対して、補助金を交付することで、本町への移住定住と分譲販売の促進を図る。 《R2は計画認定のみ。債務負担行為設定済》 ◆報償費 5千円 ◆通信運搬費 2千円	申請件数:0件	モデルハウス補助金計画認定1件	【評価:D 計画より遅れている】 個別にハウスメーカーにPRしているが、利用に至っていない。	制度利用がないため、制度の在り方を廃止も含めて検討する。	企画課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			目標	達成率		
78 町外者による「ゆりはま暮らし体験ポランテア」の宿泊費助成事業	町内で移住定住希望者にポランテアで作業を行ってもらうことで、地域間交流と地域の人手不足の解消を図る。 ポランテア受入者に報償費を支払い、ポランテア従事者には宿泊費を負担する。 ◆ポランテア受入報償金 100千円 ◆ポランテア受入委託料(宿泊)60泊 330千円 ◆宿泊費補助 26千円 ◆通信運搬費 6千円	ポランテア従事者0名受け入れ ◆ポランテア受入報償金 0千円 ◆ポランテア受入委託料(宿泊)0千円 ◆宿泊費補助 0千円 ◆通信運搬費 0千円	ポランテア従事者:20名	【評価:D 計画より遅れている】 新型コロナウイルスの影響により、受入を中止していたため、受入が出来ていない。	移住定住、関係人口、人手不足解消に資する事業であり、新型コロナウイルスの状況を勘案しつつ、継続して実施していく。	企画課
79 若者夫婦・子育て世代住宅支援事業	どちらかが35歳以下の夫婦、中学生以下の子どもが2名以上いる世帯主への住宅新築・購入費に対して補助金を交付。 新築・購入 500千円×46件=23,000千円 新築・購入(中山間地域かさ上げ分) 100千円×8件=800千円 新築・購入(土地開発公社)1件 1,000千円 新築・購入(レークサイドビレッジ) 600千円×5件=3,000千円 合計 51件、27,800千円	◆交付決定(11/10現在・R1債務負担含) 45件 25,063千円 新築・購入 42件 20,863千円 新築・購入(中山間地域かさ上げ分) 13件 1,300千円 新築・購入(土地開発公社) 3件 3,000千円 ◆交付済額(11/10現在) 18件 10,100千円	若者夫婦・子育て世代夫婦の定住:52件	【評価:D 計画より遅れている】 前年の消費増税の駆け込み需要の反動、また、消費増税と新型コロナウイルスの影響による景気低下等の影響と思われる。	新築等の割合が少ない東郷・泊地域等(中山間地域)の補助金を高上げていることについて、の広報も充実させながら、今後とも継続して実施していく。	企画課
80 三世代同居・三世帯等支援事業	三世代家族の形成と子育ての支援を促進し、家族の絆の再生と定住促進を図る。 親と子と孫が新たに三世代で同居するための住宅の取得や増改築・リフォーム等の費用に対して助成を行う。 500千円×3件 1,500千円	◆交付決定(R1債務負担含) 2件1,000千円 新築 0件、リフォーム 0件、増改築 2件(500千円×2件) ◆うち交付済(R1債務負担含) 1件 500千円	新たな三世代家族の定住:3件	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 現在、今年中に住宅完成予定の申請を1件受けている。1件は交付済。	今後引き続き補助制度を維持し周知を図って、本町への移住定住の魅力を高めたい。	企画課
81 移住者運転免許取得支援事業	■県外からの移住者が自動車運転免許証を取得した場合、取得費用の一部を助成する。 150千円×3人 450千円 ■県外からの移住者がバーブードライバー講習を受講した場合、受講料の一部を助成する。 5千円×3人 150千円	◆運転免許取得支援事業補助金申請 0件 ◆移住運転安心支援事業補助金(バーブードライバー講習関係)申請 0件	◆県外からの移住者の免許取得:3人 ◆県外からの移住者のバーブードライバー講習受講者:3人	【評価:D 計画より遅れている】 現在、運転免許取得支援事業補助金の申請を1件受けており、交付決定している。	今後引き続き補助制度を維持し周知を図って、本町への移住の魅力を高めたい。	企画課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			達成率	評価		
82 住宅取得仲介報酬助成事業	中古住宅及び新築住宅用地(いずれも集合住宅を除く。)を購入しようとする者に対し、支払った仲介報酬を一部助成し、町内定住促進により町の活性化を図る。 130千円×7件 1,300千円	◆4件交付済 467千円 住宅購入(土地含む) 3件 住宅用地購入 1件	【評価】D 計画より遅れている 前年の消費増税の駆け込み需要の反動、また、消費増税と新型コロナウイルスの影響による景気低下の影響と思われる。	57%	今後引き続き補助制度を維持し周知を図って、本町への移住定住の魅力を高めたい。	企画課
83 お試し住宅運営事業	古民家を活用したお試し住宅と、街なかにも新設したお試し住宅を配置して、移住定住を検討している方に本町の暮らしを体験してもらおうと、空き家の有効活用、移住定住検討者と地域住民の交流による地域活性化及び定住促進を図る。 お試し住宅指定管理をまちづくり会社として運営する。	利用実績(4月～11月) もりた屋:6件 まっさき屋:11件	【評価】C 計画どおりに進んでいる 新型コロナウイルス感染症の影響により、4、5月の受入を中止したため、利用が少なかつたが、徐々に増加してきた。	40%	新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、県外へお試し住宅の利用促進のPRを行い、利用の回復と共にさらなる利用増加を図る。	みらい創造室
84 <再掲>ふるさと奨学金(名称変更)ふるさと人材育成奨学金支援事業(業)	ふるさと人材育成奨学金支援助成金 鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の認定を受け、町内に定住する人を対象に奨学金返還額の一部を助成する。 ○対象になる業種など 製造業、情報通信業、薬剤師の領域、建設業・建設コンサルタント業、旅館・ホテル業、保育士、幼稚園教諭、農業、林業、漁業、農林水産業協同組合 ○助成内容 無利子の奨学金:貸与を受けた奨学金の返還総額の1/6、有利子の奨学金:貸与を受けた奨学金の返還総額の1/8、助成期間は、原則として県内の対象業種に就職してから8年間。 ◆45千円×2人=90千円(助成中) ◆60千円×5人=300千円(新規)	鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の認定者であることを条件としているため、県の認定、交付決定の際に、本町の制度についても周知した。 町内の対象者がいないため、新規申請がない。今後県とよく連携を図りながら取り組んでいきたい。 現在、下記の2名に助成中。 H28 1名(H29に取消) H29 2名(1名:H29から補助) (1名:H30から補助)	【評価】D 計画より遅れている 新規の申請者はなし。 県の制度に併せて町の制度の周知を引き続き行っていく。	0%	鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の認定者で湯梨浜町に定住する方について、県の制度の周知と併せ、町の制度も周知し、今後も県とよく連携を図りながら取り組んでいく。	教育総務課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課	
			達成率	評価			
<p>85 〈再掲〉 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進① 【Ⅱ：②地 域福祉の推 進にも記載 あり】</p>	<p>【地方創生推進交付金】 ・生涯活躍のまち推進事業(地方創生推進) 28年度に策定した生涯活躍のまち基本計画に 基づき、都市部をはじめとする移住者や地域の 方々が、充実した生活と安心して暮らせる(湯梨 浜町版生涯活躍のまち)の実現に向けて、「湯 梨浜まちづくり株式会社」等、官民が連携し一体 となり推進していく。 ◆生涯活躍のまちPR業務(情報発信)7,404千 円(旅費823千円、役員費1,793千円。委託料 4,788千円) 令和2年度は、レークサイド・ヴィレッジゆりはま 開発事業を含む町のPRを行う。 ◆生涯活躍のまち動画制作業務15,950千円 知名度のある女優を起用したPR動画、電子雑 誌を作成しアフターコロナでの関係人口、移住 定住の促進を図る。</p>	<p>レークサイド・ヴィレッジゆりはまの造成 は完了し、一般分譲地の入居、福祉 ゾーンの一部の事業は始まった。都市 部でのPRは、新型コロナウイルス感染 症の状況を見極めながら、実施する予 定。影響により実施できていない。今後 は、関係人口を取り上げて、生涯活躍の まちとともにPRを行う。 生涯活躍のまち動画、電子雑誌「旅色」 を11月25日に公開した。今後は、本動画 をPRに活用していく。</p>	<p>〈推進交付金〉 ①県外からの 移住者:185 人(R2)、925 人(R6) ②CCRC事業 に参画する民 間事業者・団 体数:1団体 (R2)、35団体 (R6)</p>	<p>73%</p>	<p>【評価:D 計画より遅れている】 レークサイド・ヴィレッジゆりは ま事業は順調に進んでいる。 生涯活躍のまちPR事業は、 都市圏でのセミナーを開催予 定。新型コロナウイルス感染 症の状況により、オンラインで の実施など検討をする。 ①県外からの移住者:85人 人/185人=46% ②CCRC事業に参画する団 体:2団体 100% (46%+100%)/2=73%</p>	<p>R3 実施方針 引き継ぎ、新型コロナウイルス 感染症の状況をみながら、 生涯活躍のまちの東京都で の窓口であるカラフルと連携 をしながら、都市部でのPRを オンラインでの手法を含めて 実施する。</p>	<p>みらい創造室</p>

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	R3 実施方針	担当課
86 〈再掲〉 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進② 【Ⅱ:②地 域福祉の推 進にも記載 あり】	<p>・地域おこし協力隊事業(生涯活躍のまち)地域おこし協力隊3名を任命し、「湯梨浜町版生涯活躍のまち」実現へ向けて設立された「湯梨浜まちづくり株式会社」が取り組む多岐にわたるまちづくりに関連する事業などを担い、活動するもの。</p> <p>【地域おこし協力隊】 ・まちづくり会社で活動(3名) 11,976千円</p>	<p>生涯活躍のまちの拠点である総合相談センターと、それぞれの運営を担いつつ、生涯活躍のまちの中で空き家の活用促進と、町の情報発信を行っている。</p> <p>■空き家の活用(2名)については、毎月月の総合相談センターと、地域の空き家を相談日を継続開催しており、相談を受け付けている。また、東郷地域を中心に空き家活用アンケータを実施し、新たな情報発信(1名)を行っている。</p> <p>■地域おこし協力隊Facebookページを「ゆりはまフェローズ」と改題し、関係人口を創出するための情報発信を行い、関係人口「ゆりはまフェローズ」が23件増加している。(11月18日現在)</p>	<p>〈推進交付金〉 ①県外からの移住者:185人(R2)、925人(R6) ②CCRC事業に参画する民間事業者・団体数:1団体(R2)、35団体(R6)</p>	73%	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 空き家情報バンクへの登録へ1件結びつくなど、空き家利活用は、着実に進んでいる。また、情報発信については、Facebookページを「ゆりはまフェローズ」に変更したことにより、「いいね」をしたフェロー(関係人口)の認定数が、23件増加している。 ①県外からの移住者:85人/185人=46% ②CCRC事業に参画する団体:2団体 100% (46%+100%)/2=73%</p>	<p>R3 実施方針 生涯活躍のまちの拠点である総合相談センターと、それぞれの運営を中心に、湯梨浜まちづくり株式会社と、湯梨浜まちづくり関連事業の維持、空き家の利活用、情報発信を引き続き行う。</p>	みらい創造室
87 〈再掲〉 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進④ 【Ⅱ:②地 域福祉の推 進にも記載 あり】	<p>【地方創生推進交付金】 専門的知識や技術を有する看護大学と連携を進めながら、地区単位で取り組む健康づくりを推進し、町民の健康増進・健康寿命の延伸を図る。</p> <p>◆消耗品費 5千円 (地区での健康教室教材費) ◆委託料 35千円 (まちの保健室鳥取看護大学委託料)</p>	<p>6月28日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1月に開催を延期した。</p>	<p>【目標】 原地区(3年)で1回/年、まちの保健室の開催</p>	0%	<p>【評価:D 計画より遅れている】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催を延期しているため、現在、看護大学と内容の調整を行っている。</p>	<p>来年度、実施予定はないが、地区からの要望があれば、健康教室などで対応していく。</p>	健康推進課
88 全世代・全 員活躍型 「生涯活躍 のまち」事 業の推進⑥	<p>生涯活躍のまちに活かされる多世代交流拠点としての町営住宅建替えについて、発注形式の検討 ・発注形式 ・用地取得 等</p> <p>●町営住宅建設事業(PFI)に係るPFIアドバイザリー業務(21,300千円) ●ゆりはまレクササイドヴィレッジ用地取得費(75,331千円)</p>	<p>■用地取得について、レクササイドゆりはま開発株式会社と2020年10月土地売買契約締結。同月支払い完了。所有権移転登記完了済。</p> <p>■アドバイザリー業務発注に向け準備をしている。2020年12月中に業務委託予定。</p>	<p>〈推進交付金〉 ①県外からの移住者:185人(R2)、925人(R6) ②CCRC事業に参画する民間事業者・団体数:1団体(R2)、35団体(R6)</p>	75%	<p>【評価:C 計画どおりに進んでいる】 ①県外からの移住者:90人/185人=49% ②CCRC事業に参画する団体:2団体 100% (49%+100%)/2=75%</p>	<p>R1に策定した長寿寿命化計画に基づき、着実に事業実施していく。R3上期内に町営住宅建設業者を決定し、整備を進めていく。</p>	町民課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課
			達成率	評価		
89 地域おこし協力隊事業	地域おこし協力隊の活用が有効と思われる分野について、関係課の予算措置に基づき、隊員募集を企画課で行う。	任用0名	目標 協力隊の任用1名 (産業振興課分)	【評価】D 計画より遅れている 5月に募集を行ったが、応募が無かった。コロナウイルスの状況もあり募集を中断していたが、10/13から再募集を開始。年度末までの随時募集とした。 町HP、移住定住支援HPIにて広報を行うとともに、移住コーディネーターへ情報提供を行った。10/31現在、電話問い合わせが1件あったが、申し込みはない。	協力隊の活用が有効と思われる分野を精査しながら、引き続き、協力隊を配置し町の活性化につなげていく。	企画課
90 地域のにぎわい、まちづくりを創出する事業への支援① コミュニティ助成事業	コミュニティ助成事業(財)自治総合センターが実施するコミュニティ助成事業を活用し、町内各集落、団体のコミュニティ活動に必要な施設又は設備の整備を行う。 ◆通信運搬費 21千円 (交付決定後、補正予算で対応) ◆補助金2件 14,100千円 ①方地公民館 1,600千円 ②白石区自治会 12,500千円 ※6月補正予算計上	◆交付決定済 2件 14,100千円 ①方地公民館 1,600千円 ②白石区自治会 12,500千円	(財)自治総合センターが実施するコミュニティ助成事業を活用し、町内各集落、団体のコミュニティ活動に必要な施設又は設備の整備を行う。	【評価】C 計画どおりに進んでいる 令和2年度採択自治区に対し交付決定手続きを行い、うち1件額確定済。次年度の募集案内手続きを実施。	助成を行った各区において、地域の活性化等に寄与している。今後も引き続き事業の広報を行いながら、各区に助成制度の活用を促し、コミュニティ活動の推進に努めている。	企画課
91 地域のにぎわい、まちづくりを創出する事業への支援② まちづくり創出事業・ステツプ事業	まちづくり創出事業・ステツプ事業 自主的・継続的にまちづくりを推進する団体への助成を行う。対象事業は、原則新規事業で、事業成果が持続性(原則3年以上)及び活性化が図られるソフト事業。 ◆交付補助金 700千円 1件200千円×3団体(創出事業) 1件100千円×1団体(ステツプ事業) ◆役務費 2千円 ※県費:市町村交付金(1/2)	◆交付決定済 2件 300千円 創出事業(みんなの食堂ゆるりん) 1件 200千円 ステツプ事業(鬼塚の里プロゼクト) 1件 100千円	まちづくり創出する団体の育成 創出事業 1団体	【評価】D 計画より遅れている 町報等を通じて新規団体を募集しているが、現時点申請はない。	現在交付補助を行っている団体が最終年度を迎えるため、新規団体の申請を募るために、広報やPRに努めたい。	企画課

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	評価	R3 実施方針	担当課
92 地域のにぎわいを創出する事業への支援③ 集落づくり総合交付金事業	町内各集落の運営費や防災活動、その他福祉活動等自主的な集落づくり活動などに対して交付金を助成する。 ◆集落運営交付金 ◆自主防災組織維持管理交付金 ◆防犯灯設置等交付金 ◆防犯灯活性化交付金 ◆補助金 計 37,123千円 ◆通信運搬費 63千円	◆集落運営交付金(全区)、防犯灯維持管理交付金73区、区長等事務費交付金(全区)について、支払い済。 ◆集落活性化事業交付金、自主防災組織維持管理交付金、防犯灯設置等交付金については、随時交付手続きを実施。 ◆補助金 25,129千円 ◆通信運搬費 0千円	集落づくり総合交付金:75地区	60%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 全区対象等の交付金は支払い手続きは完了。随時受け付ける案件はその都度対応している。	各区の活動の維持・活性化に寄与しており、引き続き推進していきたい。	企画課	
93 地域のにぎわいを創出する事業への支援④	町内に旧地区公民館単位を基準とした地域を設定し、その地域が実施する「運動会」、「祭り」などの経費を補助する。 【補助率・補助金限度額】 補助率:10/10 限度額:地域均等分90,000円+地域の人口×150円 ◆補助金 3,610千円 ◆役務費 6千円	12地域全てから申請を受け、交付決定および概算払をしている。 ◆補助金 3,564千円 ◆役務費 0円	地域にぎわい創出補助金:12地域	60%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 新型コロナウイルスの影響による事業が縮小となっており、下期の概算払いを行っていない地域がある。	各地域の活性化に寄与しており、引き続き取り組んでいきたい。	企画課	
94 地域のにぎわいを創出する事業への支援⑤ ボランティア団体育成支援事業	ボランティア団体育成支援事業 ボランティア団体の育成を図り、住民参加型の地域活動を促進し、協働のまちづくりを推進する団体を支援する。 ◆補助金 16団体 513千円 ◆消耗品費 5千円 ◆通信運搬費 5千円	交付決定済 9件 うち新規交付団体 1件 ◆補助金 0千円 ◆消耗品費 0千円 ◆通信運搬費 0千円	NPO法人、ボランティアグループの数:2団体増 ※助成金を交付した団体	50%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 新規に交付申請を行った団体が1件あり。	地道ではあるが団体数は増えており、今後もPRIに努めていく。	企画課	
95 防災対策特別強化事業	湯梨浜町内各集落の防災意識高揚のための人的支援。15件以上の各種団体・集落における研修を実施する。また、自主防災組織を1地区以上設立する。 ◆報酬 2,106千円 ◆期末手当 297千円 ◆社会保険料 435千円 ◆旅費 10千円 ◆費用弁償 120千円 ◆消耗品 100千円 ◆通信運搬費 10千円	■研修12回開催 4月 東田後区 6月 町中央公民館 7月 尾長区 9月 東伯郡連合婦人会 10月 新川区、宇野区、門田区、久留野区、湯梨浜文化センター 11月 湯梨浜防災シミュレーション、原区	15件以上の各種団体・集落における研修を実施。また自主防災組織を1地区以上設立する。	80%	【評価:D 計画より遅れている】 コロナ禍による開催自粛の影響が大きいが、12月以降については数件の問い合わせがあり、コロナ感染対策をしての開催について、投げかけをする。	湯梨浜町防災マップの内容による研修が未実施である集落を重点的に開催できるように推進していきたい。	総務課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	達成率	KPI	評価	R3 実施方針	担当課
96 小地域拠点集会所等バリアフリー事業	高齢化した地域住民等が安心して地域交流できるために拠点である地域集会所等のバリアフリー改修に対し助成を行う。上限1,000千円。2/3助成。 ◆補助金 2,000千円 より多くの地区にバリアフリー改修を実施していただくため、各区長に事業内容等についてお知らせし、改修の必要性を検討いただき、実施を呼びかける。	バリアフリー改修実施 ・4月 国道区 トイレ改修 ・5月 長瀬中央区 トイレ改修 ・11月頃 はわい温泉区 段差解消工事(交付決定済み) ・新川、野花、門田地区改修予定	バリアフリー改修5地区	60%	【評価】C 計画どおりに進んでいる 現在2地区がバリアフリー改修実施済み、4地区が改修予定であり、それぞれに助成を実施、又は実施予定である。区長会等で事業を周知し、実施を呼びかけていきたい。	R3 実施方針 地区公民館、集会所について、すべての人が使いやすい施設とするため、引き続きトイレや玄関、廊下、階段などのバリアフリー改修を推進する。	総合福祉課	
97 買い物難民対策事業	高齢者支援のための地域支え合いの手引きの情報更新し、買い物等不便者の解消を図る。 町社会福祉協議会が実施している「のりあいバス運行事業(週1回運行)」の経費助成を行い、高齢者等の移動手段の確保を図るとともに、より活用しやすいのりあいバス運行事業について検討を進める。 また、高齢者等の移動手段の拡充について検討を進めたい地域や地域貢献活動を行う民間事業者との協議を進め、のりあいバス事業以外の移動手段について協議を進める。 ◆補助金 319,000千円(当初予算)	毎年、買い物支援にかかると社会資源の把握を随時行い、情報提供を行っているが、今年度はまだ情報収集の段階で、改訂には至っていない。 また、移動手段をもたない高齢者等の移動の利便性向上を図るため、町社会福祉協議会が週1回・2路線運行している「のりあいバス運行事業」に對し、移動支援事業補助金として運行経費の一部を助成する補助金の交付決定を行った。 ・のりあいバス運行事業登録者 42人 移動手段の確保が課題となっている地域に、共助交通の取り組みについて声掛けを行っており、1地区では地域内でアンケートを実施された。 12月7日には社会福祉協議会の小地域ネットワーク研究会で共助交通についての研修が予定されている。	社会資源の把握、啓発を行うにつなげる。 また「のりあいバス事業」の利用者を45人以上とし、運行に係る経費の助成を行う。	72%	【評価】D 計画より遅れている 地域支え愛の手引きは情報収集の段階で、改訂ができていない。 町社会福祉協議会が実施する「のりあいバス運行事業」の経費の一部を助成することにより、移動手段を確保することが買物等における移動の利便性向上のための施策を支援することができている。 ・のりあいバス運行事業登録者 42人/45人×0.5=47% ・運行経費の助成 進捗率50%(補助金交付決定まで済) ×0.5=25% 合計 72%	移動手段の確保が困難な高齢者については、今後引き続き支援をしていく必要があり、「のりあいバス運行事業」への助成やタクシーチケット助成等を継続して実施するとともに、各事業利用者の意見を聞きながら、共助交通実施の検討やタクシーチケット助成制度の見直しなど、移動手段の確保が困難な高齢者の利便性向上のための施策について検討を行い、実現可能なものから随時実施していく。	長寿福祉課	
98 小さな拠点事業の推進	【地方創生推進交付金】 泊地域において、住む人・場所、買い物、地域コミュニティ、行政などの各機能と各集落をつなげ、地域の再生を目指す取り組みを行う。 地域住民が主体となった運営団体設立の協議をしながら買い物機能拠点の運営方法の検討、基本設計を実施する。 ◆協議会運営 81千円 ◆基本設計委託 1,590千円	買い物機能の運営を担う団体の発起人がこれまで9回開催されている検討の中で、店舗施設の持続的な経営が困難であると判断することともに、新たな移動販売が泊地域に11月からスタートしているため、買物難民に効果が見込まれることから、店舗施設の設置は行われず、移動販売の状況を見守っていくこととする。	小さな拠点運営団体の設立	0%	【評価】D 計画より遅れている 持続可能な店舗運営方法の確立が難しい点と、新規の移動販売の泊地域への参入があり、施設設置は行わないため、移動販売へ可能な範囲での協力や支援を検討していく予定。	発起人会による移動販売への協力や支援が検討される予定。	みらい創造室	
99 ICT推進事業 ①	行政イントラシステムを活用を動員し、県内自治体間における業務効率化を促進する。 ◆負担金 56千円	新規会議室の開設 0件	県等によるスペース(ワーキンググループ)の立ち上げ件数: 30件	0%	【評価】D 計画より遅れている 特に新規案件で会議室を作った協議したい内容がなく、動きなし。	デジタル庁の動向によりシステム関連についての会議室の開設も増えていくと思われるので、県と協力しながら取り組む。	企画課	

第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと・創生総合戦略

事業名	計画	実績	目標	KPI		R3 実施方針	担当課
				達成率	評価		
100 ICT推進事業 ②	鳥取県と県内市町村(一部除く)が、共同で運用している電子申請システムの利用促進と、情報通信技術に関する業務対応が可能な職員育成に努める。	7月17日 電子申請サービス操作研修3部署4名参加。電子申請取扱い手続き、11月末現在で追加なし。	5部署以上の職員の研修参加・電子申請取扱い手続き5以上の追加	30%	【評価:D 計画より遅れている】 研修については3部署参加も、現時点で新規電子申請手続きながら、各課に手続きの追加を呼び掛ける。	各課に電子申請手続きの追加を呼び掛けを行うとともに、総務課で作成を支援して電子申請が可能な業務の増加を図る。	総務課
101 東京大学 フィールドスタ ディ型政策協 働プログラム	東京大学の学生が自治体の社会的課題解決のため、事前調査②地域に滞在して現状を体験・把握③課題解決提案に向けた調査④地域及び大学で提案を行う。学生を受け入れることで、湯梨浜町の関係人口の創出を図る。 →新型コロナウイルス感染症対策のため今年度事業中止	新型コロナウイルス感染症のため今年度中止。 代替としてオンライン形式で関係人口に関する地域交流会を開催し学生4人が参加している。これまでに2回交流会を開催した。今後は、学生からの報告を受けける予定。	交流した学生にゆりはまフェローになってもらう4人	0%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 10月20日、11月17日に地域交流会ワークショップに参加した。	通常通りのフィールドスタディ型政策協働プログラムに参加し湯梨浜町の関係人口創出を図る。	みらい創造室
102 ふるさと納税 推進事業	ふるさと納税の寄附受け入れ、町特産品(返礼品)送付、定期的な情報提供・町のPRを通じて、寄附リピーターと関係人口の増加を図る。	寄附者に向けて、定期的な情報提供をおこなない、関係人口の増加を図った。 情報提供 4月パンフレット 6,500部送付 10月パンフレット 6,500部送付 チャイム新着情報 74発信 メルマガ 10回送信 寄附者数 8,500人	メルマガ等による情報提供 24回以上 寄附者数 毎年 10,000人以上 (R1 16,740人 H30 8,606人 H29 7,059人)	75%	【評価:C 計画どおりに進んでいる】 メルマガや新着情報発信による定期的な情報提供と、寄附者への特産品の送付により、寄附リピーターと関係人口の増加を図った。引き続き情報提供・PRに努めていく。	ふるさと納税寄付は、事業を実施する上での貴重な財源であるとともに、地域の特産品を知ってもらう機会である。しみをもちついてもいい、地域に親しみを持ってもらう機会であるため、引き続き継続的な情報提供により、寄附者のリピーター化による関係人口の増加に努めていく。	総務課
103 企業版ふるさと納税推進事業	都市部などの企業に総合戦略に係る事業をPRし、事業に対して寄附を募る。本町の取り組みに関心をもちたいだけでなく、将来的に人材の交流などに結びつけるなど、企業との連携の深化を図る。	4月、「SIBを活用した飛び地型自治体連携事業(食と健康のまちづくり事業)」についての寄附の募集を目的し、健康推進課及び総務課と、制度内容や役割分担などを確認した。	事業受付を開始する事業を1事業以上とする。	0%	【評価:D 計画より遅れている】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により企業へのアプローチを見合わせている状況。「SIBを活用した飛び地型自治体連携事業(食と健康のまちづくり事業)」については複数の自治体とともに取り組む広域連携事業であることから、各自自治体と真実的な募集方法について協議を重ねる必要がある。	「SIBを活用した飛び地型自治体連携事業(食と健康のまちづくり事業)」における寄附を実現し、これを足掛かりとして総合戦略上の他の事業においても募集を受け付ける。	みらい創造室

事業名	計画	実績	KPI		R3 実施方針	担当課	
			目標	達成率			評価
104 ゆりはまフェ ローを核とした 関係人口推進 事業	地域おこし協力隊によるFacebookのフォロワーや、町イベント等参加者及びふるさと納税者のうち県外者を「湯梨浜フェロー」とし位置付け、町の広告塔としての役割を担っていただくほか、体験ボランティアとして来町していただくことにより、町の関係を維持し、将来的な移住定住に結びつける。 《R2予算額》6,038千円(旅費443千円、需用費721千円、役務費86千円、委託料4,788千円)	9月から地域おこし協力隊のFacebookページを「ゆりはまフェローズ」と変更して、町の魅力、施策の情報発信を行っている。変更後、ページへの「ね」をしてフェロー(関係人口)と認定された数が23件増加した。(11月18日時点) 今後は、都市圏でのセミナーを開催してフェローの数を増やしていく。	新たにゆりはまフェローに認定された人数:30人	77%	【評価】C 計画どおりに進んでいる Facebookページ「ゆりはまフェロー」の開設により、関係人口のPRが一元化され、効果的な発信を行っている。	R2年度にゆりはまフェローの数を増加させて、R3年度以降は、フェローの来町や実際の住民との関係人口創出させるためのセミナー、ツアーを実施する。	みらい 創造室

第2期 湯梨浜町まち・ひと・しごと 創生総合戦略

鳥取県湯梨浜町

令和2年3月

(令和2年6月改訂)

(令和2年12月改訂)

目次

1	基本的な考え方	1
	(1) 趣旨	1
	(2) 総合戦略の位置づけ	1
	(3) 計画の前提となる社会背景	1
	(4) 計画期間	2
	(5) 目標管理及び見直し（PDCAサイクルの確立）	2
2	目指すべき基本方針	3
	(1) 人口減少（自然減と社会減）に歯止めをかける	3
	(2) 当面避けられない人口減少から生じる諸課題に的確に対応する	3
	【3つの基本目標】	3
3	重点戦略	4
	基本目標Ⅰ 活力ある元気なまち	4
	① 農林水産業の振興	4
	② 観光産業の振興	5
	③ 商工業の振興	6
	④ 雇用の促進	6
	基本目標Ⅱ 安心して暮らせるまち	7
	① 子育て環境の推進	7
	② 地域福祉の推進	8
	③ 結婚の出会いの場づくりと情報提供	9
	基本目標Ⅲ 町民みんなが創るまち	10
	① 移住定住の推進	10
	② まちのにぎわい創出や拠点の形成	11

町民課

町民課

(町民課)

町民課

1 基本的な考え方

(1) 趣旨

この第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）は、「湯梨浜町人口ビジョン」に掲げた、本町の未来に向けた3つの基本目標「活力ある元気なまち」、「安心して暮らせるまち」、「町民みんなが創るまち」を実現するためのまち・ひと・しごとに関する総合的な施策を展開し、喫緊の課題である人口減少を克服し、将来の持続的発展可能なまちづくりを進めようとするものです。

平成27年10月に策定した「湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間が令和元年度で終了するにあたり、これまでに湯梨浜町が取り組んできた地方創生施策を検証し、前戦略の取組を継続しつつ、新たな時代に沿った取組を追加し、今後5年間の施策の方向性を示す次期総合戦略を策定します。

(2) 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、本町の目指す地方創生を実現するため、町民のみなさんと意識を共有化し、今後目指すべき将来の方向と具体的施策を進めるための指針となるものです。

総合戦略の策定にあたっては、地元で活躍する産学金労言、まちづくり団体、各種団体、主役である町民のみなさんと共に取り組みます。

平成27年に策定した湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗は、全体として概ね順調であり、5年間で「達成済、事業完了」、「計画以上に進んでいる」及び「計画どおりに進んでいる」事業は、全体の64.9%（94項目中61項目）を占めました。今後は、観光客の誘致、町民への仕事の充実、子育てしやすい環境づくりのほか、Society5.0（※1）実現に向けた取り組みやSDGs（※2）を達成するための取り組みをはじめとした、世界の新たな動きに対応していく必要があります。

また、湯梨浜町総合計画等の各種計画との整合性を保ちながら、社会情勢や町民のニーズに的確かつ柔軟に対応し、必要に応じた見直しを行います。

(3) 計画の前提となる社会背景

本町の人口は、1970（昭和45）年以降17,000人台の人口で推移し、安定した人口形態でした。近年では1995（平成7）年以降微増した人口も2005（平成17）年をピークに減少傾向にあります。

この傾向は、本町のみでなく、国全体が「人口減少時代」に突入している中で、人口減少がこのまま続けば、将来的には経済規模や生活サービスの更なる縮小・低下を招きかねません。早急に人口減少に歯止めをかけるとともに、当面避けられない人口減少に的確に対応していくことが必要です。

本町は、上質で豊富な湯量の温泉、全国一の産地である二十世紀梨をはじめとする優れた農産物、日本海の海の幸などの産業のほか、美しい自然環境に恵まれています。それらに関する産業は後継者不足等の様々な課題を抱えています。そのため、町の持つ優れた地域資源や特徴を活かしながら、町の歴史や文化資源との共生、再生と創造を図ることが重要です。また、核家族化等の社会構造の変化や地域社会の復権などにより、子育てしやすい環境づくりや住みやすいまちづくりを進めなければなりません。

これらを総合的に推進することにより、全世代の町民が活躍し、足腰が強く、魅力にあふれるまちをつくり、将来の発展を目指すものです。

(4) 計画期間

総合戦略の計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

(5) 目標管理及び見直し（PDCAサイクルの確立）

総合戦略は、町民、地域、団体、企業、行政など全体で共有し、協働して推進する「公共計画」であるため、計画策定（Plan）、実施（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）の各過程においても、町全体が関わる体制を構築し高い実効性を確保します。

また、重点戦略及び施策に設ける数値目標並びに重要業績評価指標（KPI）については、実施した事業の量を測定するものでなく、その結果によって得られた成果を測定する成果指標を原則とし、目標を明確化することで、町全体での目標の共有化と成果を重視した取り組みを展開します。さらに、点検と評価により、目標の管理を行い、その結果を広く公表するとともに、必要に応じて計画の見直しを行います。

※1

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

※2

Sustainable Development Goals の略であり、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の17の開発目標です。また、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（平成28年12月22日第2回持続可能な開発目標（SDGs）推進本部決定）において、政府全体及び関係府省庁における各種計画や戦略、方針の策定や改訂に当たっては、SDGsを主流化することとされており、実施のための主要原則の1つに「包摂性」が示されています。なお、17の開発目標については、次のとおりです。



2 目指すべき基本方針

自然減が特に進んできた本町にあって、近年では社会増も見られるようになってきましたが、依然として社会減の傾向が続いています。この両方が進む人口減少問題は、地域経済や地域住民の生活にも大きな影響を与える極めて重要な問題です。

その問題を克服するためには、

(1) 人口減少（自然減と社会減）に歯止めをかける

急激に人口が減少している状況に歯止めをかけ、将来的にある一定水準の人口を保つていくため、

- ①若い世代の結婚、妊娠、出産、子育ての希望をかなえることで出生数を増やし、本町の主な人口減少の要因である自然減を抑制する必要があります。
- ②魅力あるしごとの創出や豊かな生活・教育環境の整備により、本町をより住みやすく魅力ある地域にすることで、町内に人を呼び込み、若い世代の町外への流出を防ぎ、確実な社会増への転換を図る必要があります。特に、時代とともに変遷する社会のニーズに対応した地域社会を創る必要があります。

(2) 当面避けられない人口減少から生じる諸課題に的確に対応する

(1)の策を講じても、現在の少子化・高齢化の状況に鑑みれば、人口減少は続くものと見込まれるため、

- ①地域の主体性と創意のもとに、地域の資源や人材を生かし、効率的・効果的な社会・経済システムの構築を通じた持続可能な地域づくりを進める必要があります。
- ②生産年齢人口を見直し、高齢者が引き続き社会で活躍し続ける仕組みを構築し、若年層を補足する必要があります。

そこで、総合戦略では、次の3つの基本目標を設定し、自然減に対し、合計特殊出生率の目標値として、2014（平成26）から2018（平成30）年の5カ年平均1.98を、2030（令和12）年には2.07まで引き上げること、社会減に対する目標値として5年後には転入転出の移動率が均衡に達し社会増を目指していくという将来の目標に向かって、直面する今後5年間の取組を推進します。

【3つの基本目標】

I 活力ある元気なまち

（地域経済の持続的発展のための「しごと」を創る）

II 安心して暮らせるまち

（少子化対策や共に支え合うひとづくりの推進による「ひと」を増やす）

III 町民みんなが創るまち

（地域の持続的発展のための活力維持による「まち」を創る）

3 重点戦略

湯梨浜町総合戦略では、「活力ある元気なまち」、「安心して暮らせるまち」、「町民みんなが創るまち」の3つの基本目標に沿って、先駆的・重点的に取り組む施策を展開します。

基本目標Ⅰ 活力ある元気なまち

活力ある元気なまちづくりを行うため、地域資源を活かした個性豊かな産業の振興に努めながら、既存産業の充実はもとより、様々な産業の連携による新たな活力を創出します。

《SDGsの関連目標》



●数値目標（令和6年度）

指標	数値目標
温泉宿泊客数	17万人（年間）
新規就業者数（常用雇用）	200人（年間）

●基本的方向

- 二十世紀梨等の特産物を活かした果物大国を目指す農業、東郷池のシジミや日本海の豊富な水産物を活かした漁業、町土の半分を占める森林を活かした林業、地場産業の振興に努めます。
- 温泉や歴史・文化、自然・健康、環境を活かした観光の振興を図り、交流人口の増加に努めます。
- 「グラウンド・ゴルフ」や「ウォーキング」など本町の特性を活かしたまちづくりを推進します。
- 行政、町内の様々な団体、企業などによる連携体制を強化し、商工業の発展に努めます。
- 企業の新規立地や付加価値向上のための様々な取り組みを行うことにより、人材育成と雇用の確保に努めます。

●具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

①農林水産業の振興

《具体的施策》

- 二十世紀梨等の特産物を活かした「果物大国」の推進
- 新規就農者の増加支援、担い手確保・育成、集落営農化の促進
- 農林水産物や食など地域の魅力を活かした名産・名物の開発・販路開拓
- 遊休農地及び耕作放棄地解消への対策
- 東郷池や日本海の豊富な水産物を活かした漁業の振興
- 森林を活かした林業の振興

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
梨栽培面積	138ha	130ha

梨新品種への改植・新植	6.09ha	5.0ha (R2~6)
新規就農者	16人	26人
認定農業者(家)数	47経営体	57経営体
GIマーク、商標権、意匠権等の取得件数	1件	3件 (R2~6)
利用権設定面積	264.9ha	300ha
シジミの漁獲量	556t	560t (R2~6)
漁業経営体数	40経営体	40経営体

《具体的事業》

- 農産物販路拡大及びブランド化推進事業
- 鳥取梨等生産振興事業（農業生産現場強化事業）
- 東郷梨地域連携栽培プロジェクト事業
- 二十世紀梨を守る事業
- 湯梨浜版担い手認定
- 中核的担い手農家育成奨励金交付事業（農業生産現場強化事業）
- 知的所有権取得支援
- パッケージデザイン作成助成事業
- 東郷湖漁業振興事業
- 沿岸漁業活性化推進事業
- 特産果物生産振興事業
- 森林環境税関連事業
- ゆりはま農作業体験ツアー

②観光産業の振興

《具体的施策》

- 「グラウンド・ゴルフ」や「ウォーキング」など本町の特性を活かし、国内はもとよりインバウンドを推進
- はわい温泉・東郷温泉を活かした観光地としての魅力向上（滞在型観光・周遊観光の推進）
- 天女のふる里づくり事業による、交流人口の増加と地域の活性化の推進
- 観光客に対応したWi-Fiの整備、誘客キャンペーンなどの推進（多言語対応、利便性の向上）
- 戦略的な情報発信と着地型や体験型の観光メニュー造成、誘客

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
海外からのイベント参加者数	816人	2,296人
海外からのイベント参加国数	22カ国	32カ国
外国人宿泊者数	4,018人	8,500人以上 (年間)
着地型観光商品利用者数	1,155人 (年間)	2,000人以上 (年間)

《具体的事業》

- グラウンド・ゴルフ国際化及び潮風の丘聖地化の推進
- ウォーキングリゾート構想の推進及びインバウンドの促進

- アロハカーニバル事業
- 天女のふる里づくり事業
- 観光地域づくりの核となる「DMO」の推進（広域連携）
- 教育旅行のメニュー開発事業
- ゆうゆうゆりはま事業
- 食と健康のまちづくり事業

③商工業の振興

《具体的施策》

- 事業所の新設や新分野への進出、新製品開発、6次産業化等に対する支援
- 地元資源を活用した町内商工業者の振興と活性化の推進
- ICTを活用したコンテンツ系企業など企業誘致の推進
- 商工団体など関係機関と連携した事業承継の推進

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
支援制度を活用した起業事業者数	32件	25件 (R2~6)
事業承継に着手した事業者数	—	5事業者

《具体的事業》

- ゆりはまじげ産業支援事業
- チャレンジショップ支援事業
- アロハカーニバル事業〈再掲〉
- ふるさと名物応援事業
- 環境創出プロジェクト事業

④雇用の推進

《具体的施策》

- 地場産業の振興、起業家支援、企業誘致や雇用奨励制度などによる雇用の創出
- 就職情報提供による企業と学生とのマッチング促進
- 高齢者の経験や知識を活用した就労の支援

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
支援制度を活用した雇用者数	14人	15人 (R2~6)

《具体的事業》

- 看護師、保育士奨学金助成事業
- チャレンジショップ支援事業〈再掲〉
- 雇用促進奨励金事業
- 就職関連情報提供事業
- 企業誘致用地等情報提供事業
- ビジネス人材移住支援事業

基本目標Ⅱ 安心して暮らせるまち

安心して子育てができる環境を整備するとともに、出会いと、子どもから高齢者、障がいのある人など、すべての人が笑顔にあふれ、いつまでも健康で生きがいの持てる安心、安全のまちづくりを推進します。

《SDGsの関連目標》



●数値目標（令和6年度）

指標	数値目標
合計特殊出生率	2.07
出生数	150人（年間）

●基本的方向

- 全国的に急速な少子化が進み、また、家庭及び地域を取り巻く環境が変化する中で、安心して子どもを産み育てるための総合的な支援施策や福祉施策の実施を推進します。
- 共に支え合い安心して暮らせるまちづくりを推進するため、お年寄りや障がいのある人を地域で支える取り組みを推進します。
- 人との絆や地域のつながりを活かしながら出会い・結婚を望む方を応援します。

●具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

①子育て環境の推進

《具体的施策》

- 安心して子育てができる保育サービスの充実など環境整備の推進（子育て世代の経済的な負担の軽減）
- 妊娠期から子育て期にわたる総合的相談支援を行うワンストップ化の推進
- 放課後児童クラブや放課後子ども教室の充実、開かれた学校づくりなど、地域で子どもたちが安全で安心して過ごせる居場所づくりの推進
- 子どもたちの健やかな成長を地域全体で支える教育環境づくりの推進
- 地域の中で育ち、湯梨浜のすばらしさを体感し、ふるさとに愛着を持ち大切に守っていかうとするふるさと教育の推進
- 仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスの環境づくりを事業者とともに推進

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
2歳未満児を家庭で子育てする率	—	70.3%
第3子以降出産数	145人	150人(R2~6)
こども園待機児童数	4人	0人
自主学习の広場利用者数	小学生 259人	小学生 509人

	中学生 83人	中学生 183人 (R2~6)
ふるさとを愛する児童の割合	87.4%	85%以上
鳥取県男女共同参画推進企業の認定企業数	16社	21社
イクボス宣言企業数	—	17社

《具体的事業》

- 家庭子育て支援事業
- 多子世帯保育料軽減事業
- 第3子以降中学校卒業祝金支給事業
- 子育て世代包括支援センターの整備
- 不妊治療費助成事業
- ファミリーサポートセンター事業の充実
- 病児・病後児・夜間保育事業（広域連携）
- 放課後児童クラブ・放課後子ども教室の推進
- SNS等による子育て支援情報の提供
- ゆりはま自主学习の広場事業
- 学校支援ボランティア事業の推進
- ふるさと教育の推進
- 小学校社会科副読本作成事業
- ワーク・ライフ・バランスセミナー事業

②地域福祉の推進

《具体的施策》

- 地域や個人に密着した健康づくりの推進
- ボランティアとして地域の自主的な介護予防や健康づくり活動の指導や支援の推進
- 保健師等による定期的な訪問による、相談体制の充実を図る
- 町民や移住者が健康で生涯活躍ができるまちを推進

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」事業に参画する民間事業者・団体数	30団体	35団体
食と健康のまちづくり事業による測定数値改善割合	55.32%	70%以上

《具体的事業》

- 地域で取り組む介護予防活動推進事業
- 歯・口の健康づくり推進事業
- 健康相談・健康教室等の実施
- 鳥取看護大学による「まちの保健室」との連携
- SIBを活用した飛び地型自治体連携事業（食と健康のまちづくり事業）
- 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」事業の推進

③結婚の出会いの場づくりと情報提供

《具体的施策》

- 結婚を希望する男女の出会いの機会を創出する縁結び支縁員の活動を支援するとともに情報提供を行い、少子化・定住化対策の推進
- 出会いや交流機会が広がるよう、広域連携を含めた出会いの場づくりの推進

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
結婚支援事業による婚姻件数	1件	6件

《具体的事業》

- 縁結び支縁員事業
- 婚活イベント事業（広域連携）

実施内容	担当
婚活イベントの開催	婚活部
縁結び支縁員の育成	婚活部

本事業は、結婚を希望する男女の出会いの機会を創出する縁結び支縁員の活動を支援するとともに情報提供を行い、少子化・定住化対策の推進を図ることを目的とする。具体的には、婚活イベントの開催や縁結び支縁員の育成などを実施する。また、広域連携を含めた出会いの場づくりの推進を図る。実施期間は令和5年度から令和6年度までとする。予算は、婚活部が中心となり、関係部署と連携して実施する。効果測定として、婚姻件数の増加を図る。また、参加者の満足度を調査し、サービスの向上を図る。関係部署との連携を強化し、事業の効果を最大化する。令和5年度は、婚活イベントを3回開催し、縁結び支縁員を10名育成する。令和6年度は、婚活イベントを4回開催し、縁結び支縁員を15名育成する。また、広域連携を含めた出会いの場づくりの推進を図る。関係部署との連携を強化し、事業の効果を最大化する。令和5年度は、婚活イベントを3回開催し、縁結び支縁員を10名育成する。令和6年度は、婚活イベントを4回開催し、縁結び支縁員を15名育成する。また、広域連携を含めた出会いの場づくりの推進を図る。関係部署との連携を強化し、事業の効果を最大化する。

実施内容	担当
婚活イベントの開催	婚活部
縁結び支縁員の育成	婚活部

基本目標Ⅲ 町民みんなが創るまち

豊かな自然環境を活かしながら本町の魅力を発信し、都市部からのひとの流れをつくとともに、町民一人ひとりが積極的にまちづくりに参画し、町民と行政が連携・協働してまちづくりを推進します。

《SDGsの関連目標》



●数値目標（令和6年度）

指標	数値目標
県外からのI J Uターン者数	925人 (R2~6)
転入転出異動	均衡【累計】

●基本的方向

- 超高齢化の進行や社会情勢の変化により、人口減少・空き家が増加していることから、町の魅力を積極的に発信しながら、移住希望者への支援体制を整備し、移住定住を促進します。
- 生活様式や個人の価値観が多様化する中、今以上にコミュニティの醸成を図るため、町民や団体が主体となって行うまちづくり活動を支援します。
- 地域住民が主体的・意欲的に取り組む地域を守る防災体制づくりや、だれもが参加しやすい拠点づくり、基盤整備を推進します。
- NPO法人、ボランティアグループの育成を図り、各分野における住民参画を促進します。

●具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

①移住定住の推進

《具体的施策》

- 多様な移住ニーズに対応する相談体制の充実やI J Uターンの促進に向け広く本町の魅力を発信
- 若者夫婦や子育て世代の住宅支援をはじめ、町内への移住や定住を促進
- 空き家を活用して移住希望者が求める住まい環境づくりを推進
- 移住定住希望者が本町の暮らしを体験できるよう、お試し住宅の設置や環境づくりを図る
- 鳥取大学等との連携による「地（知）の拠点COC+」事業に参画し、地域の活性化・定住化につながる人材の育成を図る

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
空き家バンク成約件数	13件	20件 (R2~6)
若者・子育て世代の移住件数	91件	90件 (R2~6)

《具体的事業》

- I J Uターン促進事業
- 空き家情報バンク活用促進事業

- 空き家対策事業
- 移住定住者住宅支援事業
- 町外者による「ゆりはま暮らし体験ボランティア」の宿泊費助成事業
- 若者夫婦・子育て世代住宅支援事業
- 三世同居等支援事業
- 移住者運転免許証取得支援事業
- 住宅取得仲介報酬助成事業
- お試し住宅運営事業
- ふるさと奨学資金貸与事業〈再掲〉
- 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」事業の推進〈再掲〉

②まちのにぎわい創出や拠点の形成

《具体的施策》

- 町民や団体が主体となって創意工夫による魅力的な地域づくり活動を支援
- 災害に強いまちづくりを進めるため、地域住民が主体的・意欲的に取り組む防災対策を推進
- いつでも、誰もが集える拠点を整備するためバリアフリーなど環境づくりを推進
- 分散している様々な生活サービスや地域活動の場などをつなぐ「小さな拠点」づくりを推進するほか、企業等と連携した移動販売や買い物支援など多機能なサービスの充実を図る
- 山陰自動車道（北条道路）の観光・企業誘致への活用及び緊急時、福祉、健康対応のためのユニバーサルデザインによる道路などの基盤整備を推進
- 地域に伝わる伝統芸能活動や文化資源の活用による地域振興
- ICTの急速な進化がもたらす社会への対応
- 地域資源を有効活用した「癒しの地域づくり」の推進
- 温泉熱・風力・太陽光など自然エネルギーの利活用を図る
- 環境・健康づくり・福祉・教育等様々な分野における団体の育成を図り、自助・共助を推進するほか、住民参画による行政推進を目指す
- 観光地周辺の道路などの基盤整備を推進
- 地域課題の解決や将来的な移住への裾野を拡大するため、地域住民との交流や町との関わりを継続する関係人口の創出、拡大を目指す

《重要業績評価指標（KPI）》

指標	基準値	目標値
新規自主防災組織取組件数	71件	75件
集会所バリアフリー件数	19件	44件
小さな拠点の数	0地域	1地域
温泉熱エネルギー利用施設数	3施設	4施設
NPO法人、ボランティアグループの数	48団体	55団体

《具体的事業》

- 地域おこし協力隊事業
- 地域のにぎわい、まちづくりを創出する事業への支援
- 防災対策特別強化事業
- 小地域拠点集会所等バリアフリー事業
- 買い物難民対策事業

- 小さな拠点事業の推進
- ICT推進事業
- 大学生によるフィールドスタディ型政策協働プログラム
- ふるさと納税推進事業
- 企業版ふるさと納税推進事業
- ゆりはまフェローを核とした関係人口推進事業

5. 関係人口推進事業の実現に向けた取組

関係人口推進事業は、地域に貢献する人材の裾野を拡大し、地域産業の振興や新たな価値の創出に資することを目的として実施している。本事業では、ゆりはまフェローを中心に、大学生や企業版ふるさと納税事業者との協働による関係人口の創出を図っている。

具体的には、ゆりはまフェローが中心となって、大学生によるフィールドスタディ型政策協働プログラムや、企業版ふるさと納税推進事業を実施している。また、地域産業の振興や新たな価値の創出に資するよう、ゆりはまフェローが中心となって、関係人口の創出を図っている。

実施項目	担当事業	実施状況
ゆりはまフェロー	ゆりはまフェロー	関係人口の創出に資する活動の実施
大学生によるフィールドスタディ型政策協働プログラム	ゆりはまフェロー	関係人口の創出に資する活動の実施
企業版ふるさと納税推進事業	ゆりはまフェロー	関係人口の創出に資する活動の実施